

【 学 部 編 】

I	ポリシー	
1	ディプロマ・ポリシー	学部 1
2	カリキュラム・ポリシー	学部 3
II	卒業要件単位数（詳細）	
1	卒業要件単位数（詳細）	学部 7
III	学科独自の制度	
1	食環境栄養学科 再試験・追試験制度について	学部 8
IV	科目分類番号	
1	科目分類番号について	学部 9
V	共通教育科目等の課程表	
1	共通教育科目等 課程表	学部 10
VI	専門教育科目のカリキュラム・ツリーおよび課程表	
1	カリキュラム・ツリー	学部 20
2	生活マネジメント学科 ファイナンシャルプランナー養成コース 課程表	学部 23
3	生活マネジメント学科 教員・公務員養成コース 課程表	学部 25
4	環境デザイン学科 コース別最低修得単位数	学部 27
5	環境デザイン学科 アパレル・ファッションコース 課程表	学部 28
6	環境デザイン学科 空間デザインコース 課程表	学部 31
7	食環境栄養学科 課程表	学部 34
VII	教免取得に関する教育課程表	
1	中高免教職課程について	学部 36
2	栄養教諭について	学部 48
VIII	各種資格	
1	ファイナンシャル・プランナーについて	学部 53
2	衣料管理士（テキスタイルアドバイザー：TA）2級について	学部 55
3	インテリアプランナーについて	学部 57
4	一級建築士、二級建築士、木造建築士について	学部 58
5	商業施設士について	学部 60
6	管理栄養士について	学部 61
7	食品衛生監視員及び食品衛生管理者について	学部 63

1 ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーとは金城学院大学の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学修成果の目標となるものです。

〔1〕金城学院大学

金城学院大学は、福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的としています。教育スローガン「強く、優しく。」は、主体性を持ってものごとを成し遂げ、学んだ広い知識を人生の場で生かせる「強さ」、まわりの人々の気持ちを理解し、協働していく「優しさ」を兼ね備えることを意味します。

本学では、上記の建学の精神を踏まえた教育目標の実現を目指し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

- (1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

- (2) 情報を適正に収集・分析し、色々な角度から論理的に考えることで問題を発見し、解決を図ることができる。
- (3) 日本語をはじめ外国語や種々の表現方法を修得し、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。

3. 態度・志向性

- (4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。
- (5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

- (6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

〔2〕生活環境学部生活マネジメント学科

生活マネジメント学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、消費生活・家族福祉・情報活用に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

- (1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と消費生活・家族福祉・情報活用に関する深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

- (2) 消費生活・家族福祉・情報活用についての情報を適正に収集・分析し、自らの生活や社会において活用するために、さまざまな角度から論理的に考えることで問題を発見し、解決を図ることができる。
- (3) 消費生活・家族福祉・情報活用に関する諸課題について、他者の立場や見解を理解・尊重するとともに、科学的な基盤に立ちながら自らの考えを適切に表現し伝えることができる。

3. 態度・志向性

- (4) 自らを律し、他者と協働し、真に豊かな生活の実現という目標を目指して行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。
- (5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、生活者の視点から社会に貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

- (6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、消費生活・家族福祉・情報活用に関する新たな課題に取り組むことができる。

〔3〕生活環境学部環境デザイン学科

環境デザイン学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、生活環境（衣環境や住環境）に関する専門的知識・技能・デザイン力を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

- (1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と、衣環境もしくは住環境に関する深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

- (2) 情報を適正に収集・分析し、さまざまな角度から論理的に考えることで問題を発見し、その問題の構造を学問的に究明し、問題解決を図るための具体的方策を提案することができる。
- (3) 異なった立場の人々の意見を傾聴・理解し、調整しながら、問題解決へと向かうことができる。

3. 態度・志向性

- (4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。
- (5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観、加えてそれぞれの分野における職業倫理に基づき、隣人のため社会のために主体的に行動し、貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

- (6) これまでに修得した知識・技能・デザイン力・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

〔4〕生活環境学部食環境栄養学科

食環境栄養学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、食と健康に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

- (1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と食と健康に関する深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

- (2) 食と健康の問題に取り組む基礎能力を身につけ、情報を適正に取り扱い、さまざまな角度から問題点を論理的に考えて解決を図ることができる。
- (3) 他者の立場や見解を理解・尊重し、科学的な基盤に立ちながら、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。

3. 態度・志向性

- (4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。
- (5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、公衆栄養に携わることによって社会に貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

- (6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

2 カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーとはディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針です。

〔1〕金城学院大学

金城学院大学は、福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的としています。教育スローガン「強く、優しく。」は、主体性を持ってものごとを成し遂げ、学んだ広い知識を人生の場で生かせる「強さ」、まわりの人々の気持ちを理解し、協働していく「優しさ」を兼ね備えることを意味します。

本学では、上記の建学の精神を踏まえた教育目標の実現を目指し、学生が卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実験、実習および実技を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能・能力、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育及び外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。

共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。

専門教育科目における初年次教育では、学科の専門性を踏まえた種々の表現方法のスキル向上、多角的に考える力の向上を図ります。

- (3) 専門教育科目では、学生が専門分野の知識・技能を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。専門分野の体系性に基づき、適切な内容の授業を編成します。
- (4) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に卒業研究等を実施します。

2. 教育方法

- (5) 講義科目においては履修者上限人数を原則120名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (6) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (7) 実験・実習および実技科目においては、知識や技能を身につけ、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (8) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (9) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を行います。

3. 評価

- (10) 本学では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらの総合的な活用力を

確実に身につけられるように、大学レベル、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。

- (1) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準及び具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）を別に定めます。

〔2〕生活環境学部生活マネジメント学科

生活マネジメント学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能・能力、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育および外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。

共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。

専門教育科目における初年次教育では、洞察力・論理的思考力・批判的思考力・多角的に考える力、さらにプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など大学生として必要な基本的能力の向上を図ります。また学科の専門性を踏まえたレポート作成の勉学を通して授業態度と自己学修の方法を修得します。

- (3) 専門教育科目では、学生が消費生活・家族福祉・情報活用に関する専門分野の知識・技能を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 専門分野の体系に基づき、「基礎科目」、「展開科目」を設置して、生活の課題解決に必要な専門知識・技能を修得する内容の授業を編成します。また学生が身につけた知識・技術を活用し実践力を修得するために各学年に研究演習科目を設置します。
- (5) 学科の専門性を生かした資格と職業の履修モデルとして、「ファイナンシャルプランナー養成コース」と「教員・公務員養成コース」の2コースを設置し、それぞれに「コース必修科目」、「コース選択科目」、また「コース共通科目」を編成します。
- (6) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に卒業研究を実施します。

2. 教育方法

- (7) 講義科目においては履修者上限人数を原則120名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (8) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (9) 実習科目においては、知識や技能を身につけ、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (10) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (11) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を行います。

3. 評価

- (12) 本学では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、大学レベル、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。
- (13) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準および具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）を別に定めます。

〔3〕生活環境学部環境デザイン学科

環境デザイン学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を、順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系的性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

(1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・理解、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。具体的には「金城アイデンティティ科目」、「金城コア科目」、「金城展開科目」の区分に基づいた科目を編成します。

(2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。

共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。

専門教育科目における初年次教育では、学科での学びに対する動機づけを図る科目、大学での学びのための基礎力を身につける演習、デザイン基礎力を身につける実習・演習を設け、専門的知識と技能およびデザイン力を身につける環境デザイン学科独特の学びへの理解を深め、円滑な移行を図ります。

(3) 専門教育科目では、学生が生活者の視点で豊かな生活環境（衣環境や住環境）とは何かについて分析・考察し、学問的に究明するための知識・技能・デザイン力・態度を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。

(4) 生活環境学（衣環境や住環境）の体系的に基づき、「学科基礎科目」「展開科目」を設置して、それぞれの専門分野で幅広く活用できる応用的な知識・技能・デザイン力を修得できるよう授業を編成します。

(5) 多様な文化、異なった立場の隣人や社会のために貢献できるようインクルーシブデザインの考え方を取り入れます。また「研修科目」を編成し、多様な文化、環境に根ざした国内外の優れたデザイン作品、その周辺環境や人々に触れ、豊かな生活環境について理解を深めるための機会を設けます。

(6) 専門的な知識や技能を活用しながら、社会で活躍できる人材を育成するために、資格取得を支援する科目を設置します。

(7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に「卒業研究演習」「卒業論文・制作」を設置します。その成果は、発表会・展示会を通して、学内外の人々に発信します。

2. 教育方法

(8) 講義科目においては、履修者上限人数を原則120名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。必修・コース必修・資格必修の実験・実習科目では、それぞれ適正な人数で授業を行います。

(9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。

(10) 実験・実習科目においては、知識や技能、また科目によってはさらにデザイン力を身につけ、思考力と実践力を養うプログラムを編成して実施します。

(11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。

(12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を行います。

3. 評価

(13) 本学では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。

(14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準および具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）を別に定め、多面的な評価を行います。

〔4〕生活環境学部食環境栄養学科

食環境栄養学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系的性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育および外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。
共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。
専門教育科目における初年次教育では、高校から大学への橋渡しとなる「基礎科目」「演習科目」を編成し、基本的知識の修得および協調性・プレゼンテーション能力・論理的思考力の向上を図ります。
- (3) 専門教育科目では、学生が食と健康の知識・技能・態度を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 専門分野の体系的性に基づき、「基礎科目」、「展開科目」を設置して、管理栄養士として社会で幅広く活用できる応用的な知識を修得できるよう授業を編成します。
- (5) 学生が食と健康を総合的に管理する能力を身につけるために「専門基礎分野科目」と「専門分野科目」を系統立てて設置し、講義科目から実験・実習科目へと科目の内容を発展させて実践的な教育を行います。
- (6) 学生が健康の維持・増進や疾病予防の現代的課題を科学的に究明するように、様々な課題に取り組む「研究演習系科目群」を編成します。
- (7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように卒業年次に卒業研究等を実施します。

2. 教育方法

- (8) 講義科目、特に基礎科目および展開科目においては、履修者上限人数を原則40名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (10) 実験・実習科目においては知識や技能を身につけ、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を行います。

3. 評価

- (13) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。
- (14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するため、達成すべき質的水準および具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）を別に定めます。

1 卒業要件単位数 (詳細)

		生活マネジメント		環境デザイン		食環境 栄養	
		ファイナンシャル プランナー 養成コース	教員・公務員 養成コース	アパレル・ ファッション コース	空間デザイン コース		
卒業要件		128	128	128	128	128	
共通教育科目		30	30	30	30	30	
必修	①キリスト教	キリスト教学(1)	2	2	2	2	2
		キリスト教学(2)	2	2	2	2	2
	④英語教育科目	英語コミュニケーションA(1)	1	1	1	1	1
		英語コミュニケーションA(2)	1	1	1	1	1
		英語コミュニケーションB(1)	1	1	1	1	1
		英語コミュニケーションB(2)	1	1	1	1	1
		英語コミュニケーションC(1)	1	1	1	1	1
		英語コミュニケーションC(2)	1	1	1	1	1
	⑥キャリア開発教育科目	英語コミュニケーションD(1)	1	1	1	1	1
		英語コミュニケーションD(2)	1	1	1	1	1
キャリア開発A		2	2	2	2	—	
⑥キャリア開発教育科目	キャリア開発B	1	1	1	1	1	
	女性みらい	1	1	1	1	1	
⑧情報教育科目	情報リテラシー	2	2	2	2	2	
⑨S & E教育科目	スポーツ・アンド・エクササイズ講義	1	1	1	1	1	
選択必修A	①キリスト教 ②女性 ③国際理解	①～③の3テーマから1科目選択 (キリスト教学(1)、キリスト教学(2)を除く)	2	2	2	2	2
	⑦教養科目		4	4	4	4	4
	⑨S & E教育科目から1科目選択(スポーツ・アンド・エクササイズ講義、 スポーツ・アンド・エクササイズHを除く)		1	1	1	1	1
選択必修B	①キリスト教 ②女性 ③国際理解	(キリスト教学(1)、キリスト教学(2)、選択 必修Aでの履修科目を除く)	4	4	4	4	6
	④英語教育科目(英語コミュニケーションA～Dを除く)						
	⑤外国語教育科目						
	⑥キャリア開発教育科目 (キャリア開発A、キャリア開発B、女性みらいを除く)						
	⑦教養科目(選択必修Aでの履修科目を除く)						
	⑧情報教育科目(情報リテラシーを除く)						
	⑨S & E教育科目(スポーツ・アンド・エクササイズH)						
	⑩学生プロジェクト科目						
	⑪海外研修科目						
	専門教育科目						
学科基礎科目		30	30	13	9	10	
展開科目		34	34	40	38	82	
研究演習科目		5	5	5	5	3	
自由選択(上記以外の専門教育科目)		1	1	12	18	—	
自由履修		28	28	28	28	3	

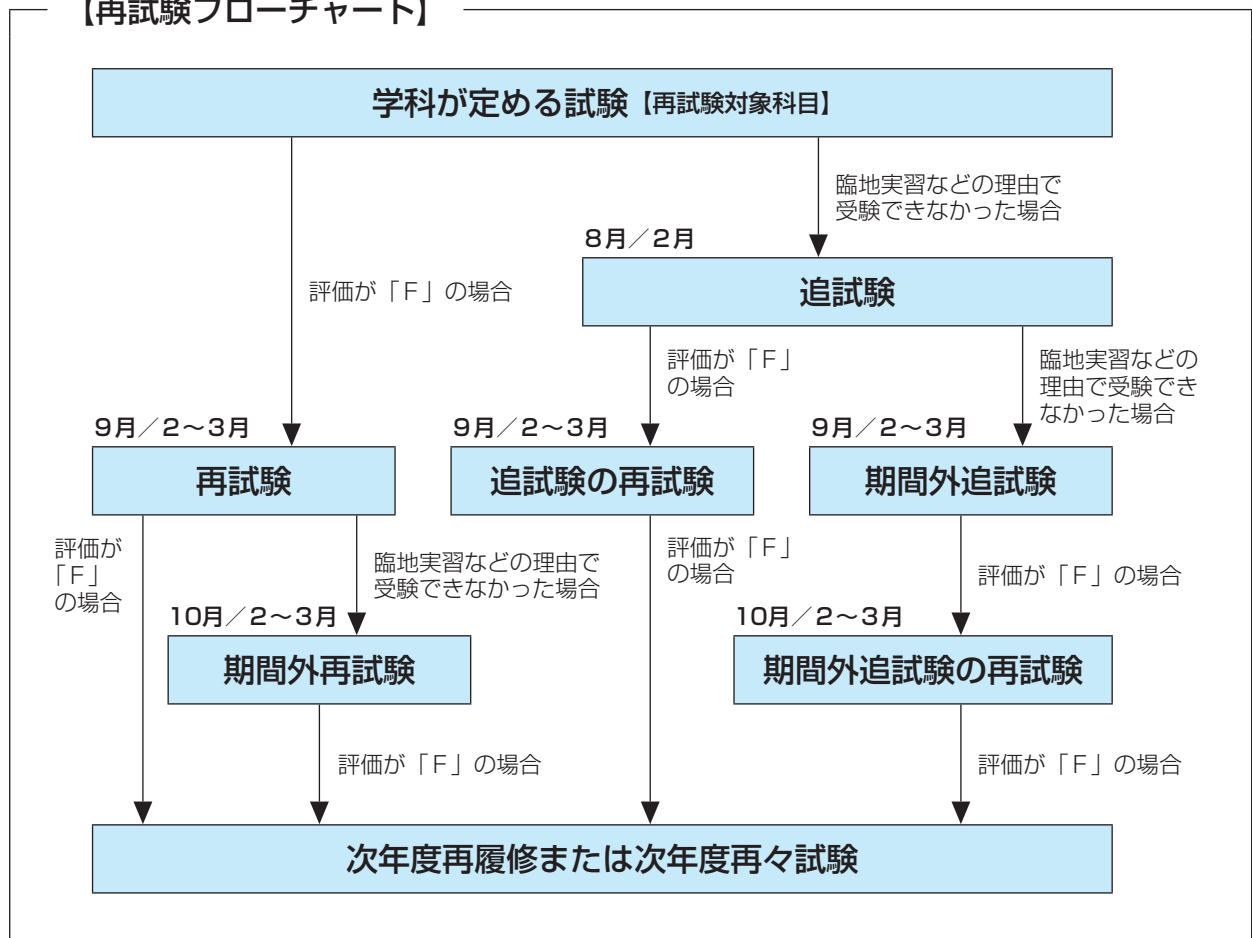
1 食環境栄養学科 再試験・追試験制度について

食環境栄養学科では、管理栄養士課程に関わる必修科目（対象科目は、履修要覧P. 学部61を参照。ただし「栄養総合演習」と「臨地実習」を除く）について、学科が定める試験で評価が「F」の学生を対象に、再試験を実施します。また追試験においても、同様に再試験を実施します。

再試験等の日程は教務関係事項スケジュール表（履修要覧別冊）で確認してください。

また、「管理栄養士特論A」と「管理栄養士特論B」は、管理栄養士課程に関わる必修科目ではありませんが、再試験を実施します。詳細については、授業内で案内します。

【再試験フローチャート】



★再試験対象者・再試験時間割：K-PORTで発表

★再試験の評価が「F」の場合：次年度再履修（次年度の再履修が不可能な場合、再試験に対する再試験（再々試験）の受験を認める。）

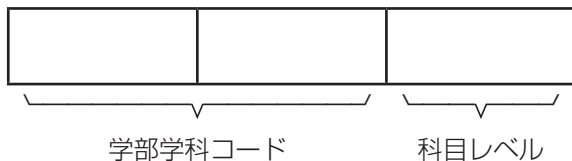
★再試験（追試験の再試験、期間外追試験、期間外再試験を含む）受験のための手続き（試験料納入方法を含む）：K-PORTで通知

★再試験料：3,000円／1科目

★卒業年度に限り、前期再試験の評価で「F」であった科目：4年次対象再試験制度の対象（4年次対象再試験についてはP. 大学13参照）

1 科目分類番号について

科目分類番号は数字3桁でカリキュラムにおける当該科目の位置づけを示したものです。履修の際の参考にしてください。



学部学科コード

共通教育：10

生活環境学部共通：30

生活マネジメント学科：33

環境デザイン学科：34

食環境栄養学科：35

科目レベル

入門：1 科目内容レベルが導入もしくは入門に位置づけられる科目

基礎：2 主に基礎として学ぶべき科目等

発展：3 応用や発展の内容を含む科目等

※科目分類番号と開講基準年次は違います。例えば3桁目のレベルが3に設定されていても、開講基準年次が1年次に設定されていれば1年生でも履修できます。反対にレベルが1や2に設定されていても開講基準年次が3年次になっていれば1・2年生は履修することができません。

1 共通教育科目等 課程表

科目名の★は必修、■は選択必修

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
I 金城アイデンティティ科目	①キリスト教	キリスト教学(1) ★	建学の精神であるキリスト教と聖書の世界について学ぶ	101	2		
		キリスト教学(2) ★		101	2		
		キリスト教学(3) ■	『聖書』とその領域について学ぶ	102		2	
		キリスト教学(4) ■	キリスト教の歴史とその領域について学ぶ	102		2	
		聖書の読み方 ■	『聖書』の執筆者、書かれた目的、内容を学ぶ	101	2		
		現代世界とキリスト教 ■	世界各地のキリスト教事情を学ぶ	101	2		
		医療とキリスト教精神 ■	医療従事者から医療とキリスト教の精神の関係を学ぶ	101	2		
		福祉とキリスト教 ■	福祉の各分野とキリスト教の関わりについて学ぶ	101	2		
		キリスト教文化学入門 ■	中世のキリスト教が生み出した祝祭日の歴史を学ぶ	101	2		
		いのち・こころ ■	誕生から死まで、困難をバネに積極的に生きることを考える	101	2		
	②女性	聖書の女性観 ■	『聖書』における女性の描き方を通して女性観を学ぶ	101	2		
		歴史の中の女性 ■	19世紀の英国と米国の歴史に登場する女性について学ぶ	101	2		
		世界の女性問題 ■	国際社会における女性の人権について考える	101	2		
		福祉と女性 ■	女性が抱える社会福祉の問題を通して生き方を考える	101	2		
		女性と文学 ■	文学や映画に登場する女性を新たな視点から考察する	101	2		
		男女共同参画社会 ■	従来からの男女観、国際比較等から日本女性の状況を考える	101	2		
		性差の科学 ■	ジェンダーと人間行動・偏見・コミュニケーションを学ぶ	101	2		
	③国際理解	世界の多様な文化 ■	異なる地域に住む人々の社会や文化、宗教的背景を学ぶ	101	2		
		世界の社会問題 ■	日本を取り巻く国際情勢とその問題について学ぶ	101	2		
		多文化共生社会 ■	多民族・多文化共生社会の実現について考える	101	2		
Topics in Comparative Culture ■		外国と比較した日本文化を基本的な英語で学ぶ	101	2			
Topics in Contemporary Japan ■		英語で学ぶ現代日本の諸問題	101	2			
異文化コミュニケーション ■		異文化間で起こる様々な問題を解決する能力を培う	101	2			

科目 区分	授 業 科 目	副 題 ・ 内 容	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数				
				1年	2年	3年	4年	
II 金城コア科目	④ 英語教育科目	英語コミュニケーションA (1) ★	Speaking・Writing	101	1			
		英語コミュニケーションA (2) ★	Speaking・Writing	101	1			
		英語コミュニケーションB (1) ★	CALL・Reading	101	1			
		英語コミュニケーションB (2) ★	CALL・Reading	101	1			
		英語コミュニケーションC (1) ★	Speaking・Presentation	102		1		
		英語コミュニケーションC (2) ★	Speaking・Presentation	102		1		
		英語コミュニケーションD (1) ★	Reading・Listening	102		1		
		英語コミュニケーションD (2) ★	Reading・Listening	102		1		
		英語コミュニケーションE (1) ■	Integrated English (総合英語)	103		1		
		英語コミュニケーションE (2) ■	Integrated English (総合英語)	103		1		
		英語コミュニケーションF ■	検定試験対策 (TOEIC L&R 対策)	103		1		
		英語コミュニケーションG ■	検定試験対策 (TOEIC L&R 対策)	103		1		
II 金城コア科目	⑤ 外国語教育科目	ドイツ語 (1) ■	初級1 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1			
		ドイツ語 (2) ■	初級2 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1			
		ドイツ語 (3) ■	初級3 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1		
		ドイツ語 (4) ■	初級4 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1		
		ドイツ語会話 (1) ■	初級1 (主としてドイツ語を用いる会話の授業)	101	1			
		ドイツ語会話 (2) ■	初級2 (主としてドイツ語を用いる会話の授業)	101	1			
		ドイツ語会話 (3) ■	初級3 (主としてドイツ語を用いる会話の授業)	102		1		
		ドイツ語会話 (4) ■	初級4 (主としてドイツ語を用いる会話の授業)	102		1		
		フランス語 (1) ■	初級1 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1			
		フランス語 (2) ■	初級2 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1			
		フランス語 (3) ■	初級3 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1		
		フランス語 (4) ■	初級4 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1		

科目 区分	授 業 科 目	副 題 ・ 内 容	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
Ⅱ 金城コア科目 ⑤外国語教育科目	フランス語会話(1) ■	初級1 (主としてフランス語を用いる会話の授業)	101	1			
	フランス語会話(2) ■	初級2 (主としてフランス語を用いる会話の授業)	101	1			
	フランス語会話(3) ■	初級3 (主としてフランス語を用いる会話の授業)	102		1		
	フランス語会話(4) ■	初級4 (主としてフランス語を用いる会話の授業)	102		1		
	スペイン語(1) ■	初級1 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1			
	スペイン語(2) ■	初級2 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1			
	スペイン語(3) ■	初級3 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1		
	スペイン語(4) ■	初級4 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1		
	スペイン語会話(1) ■	初級1 (主としてスペイン語を用いる会話の授業)	101	1			
	スペイン語会話(2) ■	初級2 (主としてスペイン語を用いる会話の授業)	101	1			
	スペイン語会話(3) ■	初級3 (主としてスペイン語を用いる会話の授業)	102		1		
	スペイン語会話(4) ■	初級4 (主としてスペイン語を用いる会話の授業)	102		1		
	中国語(1) ■	初級1 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1			
	中国語(2) ■	初級2 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1			
	中国語(3) ■	初級3 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1		
	中国語(4) ■	初級4 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1		
	中国語会話(1) ■	初級1 (主として中国語を用いる会話の授業)	101	1			
	中国語会話(2) ■	初級2 (主として中国語を用いる会話の授業)	101	1			
	中国語会話(3) ■	初級3 (主として中国語を用いる会話の授業)	102		1		
	中国語会話(4) ■	初級4 (主として中国語を用いる会話の授業)	102		1		
	韓国・朝鮮語(1) ■	初級1 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1			
	韓国・朝鮮語(2) ■	初級2 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1			
	韓国・朝鮮語(3) ■	初級3 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1		
	韓国・朝鮮語(4) ■	初級4 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1		

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数				
				1年	2年	3年	4年	
II 金城コア科目	⑤外国語教育科目	韓国・朝鮮語会話(1) ■	初級1 (主として韓国・朝鮮語を用いる会話の授業)	101	1			
		韓国・朝鮮語会話(2) ■	初級2 (主として韓国・朝鮮語を用いる会話の授業)	101	1			
		韓国・朝鮮語会話(3) ■	初級3 (主として韓国・朝鮮語を用いる会話の授業)	102		1		
		韓国・朝鮮語会話(4) ■	初級4 (主として韓国・朝鮮語を用いる会話の授業)	102		1		
	⑥キャリア開発教育科目	キャリア開発 A ★	キャリア開発の意義と方法	101	2			
		キャリア開発 B ★	マナー&コミュニケーション	101	1			
		キャリア開発 C ■	自分らしい生き方を設計する	102		2		
		キャリア開発 D ■	いきいき働く女性たち	102		2		
		キャリア開発 E ■	企業のトップに学ぶキャリアの本当の意味	103			2	
		キャリア開発 F ■	将来の仕事を考える	103			2	
		キャリア開発 G (1) ■	インターンシップ準備	102		2		
		キャリア開発 G (2) ■	インターンシップ	103			2	
		女性みらい ★	女性の心身の健康	101	1			
	III 金城展開科目	⑦教養科目	文学 A ■	日本文学論	101	2		
			文学 B ■	西洋文学論	101	2		
			文学 C ■	文学とキリスト教	101	2		
			史学 A ■	日本史入門	101	2		
			史学 B ■	西洋史入門	101	2		
			史学 C ■	現代世界の形成	101	2		
哲学 A ■			東洋哲学	101	2			
哲学 B ■			西洋哲学	101	2			
倫理学 A ■			倫理学入門	101	2			
倫理学 B ■			いのちの倫理	101	2			

大学編

履修要項・
履修案内

大学編

学籍上の
諸手続き

大学編

教務事務の
取扱い

大学編

履修規程

学部編

ポリシー

学部編

卒業要件
単位数(詳細)

学部編

学科独自の
制度

学部編

科目分類番号

学部編

共通教育科目
等の課程表

学部編

専門教育科目の
カリキュラム(ポリシー)
および課程表

学部編

教員取得に
関する
教育課程表

学部編

各種資格

科目 区分	授 業 科 目	副 題 ・ 内 容	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
Ⅲ 金城展開科目 ⑦教養科目	地 域 研 究 A ■	日本文化論	101	2			
	地 域 研 究 B ■	英語圏の生活と文化	101	2			
	地 域 研 究 C ■	ヨーロッパの生活と文化	101	2			
	地 域 研 究 D ■	アジアの生活と文化	101	2			
	地 理 ■	日本地理	101	2			
	文 化 人 類 学 ■	文化人類学入門	101	2			
	宗 教 学 ■	キリスト教と日本	101	2			
	日 本 語 学 ■	日本語学入門	101	2			
	日 本 語 表 現 ■	実践日本語	101	2			
	ロジカルシンキング ■	ロジカルシンキング入門	101	2			
	芸 術 ・ 音 楽 A ■	西洋音楽史入門	101	2			
	芸 術 ・ 音 楽 B ■	西洋音楽鑑賞入門	101	2			
	芸 術 ・ 音 楽 C ■	音楽とキリスト教	101	2			
	芸 術 ・ 音 楽 D ■	ハンドベル入門	101	1			
	芸 術 ・ 美 術 A ■	日本美術史	101	2			
	芸 術 ・ 美 術 B ■	西洋美術史	101	2			
	芸 術 ・ 美 術 C ■	美術とキリスト教	101	2			
	法 学 ■	法学入門	101	2			
	日 本 国 憲 法 ■	日本国憲法の理解	101	2			
	政 治 学 ■	政治と行政	101	2			
	平 和 学 ■	平和学入門	101	2			
	経 済 学 ■	経済学入門	101	2			
	経 営 学 A ■	経営学入門	101	2			
	経 営 学 B ■	マーケティング入門	101	2			

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
Ⅲ 金城展開科目 ⑦教養科目	社会学 A ■	社会学入門	101	2			
	社会学 B ■	消費社会論	101	2			
	名古屋学 ■	名古屋の魅力	101	2			
	心理学 A ■	社会心理学	101	2			
	心理学 B ■	発達心理学	101	2			
	心理学 C ■	臨床心理学	101	2			
	生活科学 A ■	生活と科学	101	2			
	生活科学 B ■	健康とサプリメント	101	2			
	生活科学 C ■	化粧品学入門	101	2			
	衣生活学 A ■ 生活環境学部は履修不可	生活と衣服	101	2			
	衣生活学 B ■ 環境デザイン学科は履修不可	ファッションの歴史	101	2			
	食生活学 ■ 食環境栄養学科は履修不可	食品栄養学	101	2			
	住生活学 ■	生活と住まい	101	2			
	健康科学 ■	健康科学入門	101	2			
	生物学 A ■	生物学入門	101	2			
	生物学 B ■	生命科学入門	101	2			
	環境学 ■	環境学入門	101	2			
	数学 ■	数学入門	101	2			
	統計科学 ■ 生活マネジメント学科は履修不可	統計学入門	101	2			
	情報学 ■	情報学入門	101	2			
	薬学 ■	女性のための薬学入門	101	2			
教職入門 ■	教職の意義と役割	101	2				
学校と教育の歴史 ■	教育の歴史と思想	101	2				
発達と学習 ■	子どもの発達と学習過程	101	2				

※「大学での学び」は高大接続連携授業において履修する科目であり、入学後の履修はできません。

※「スポーツ・アンド・エクササイズH」の修得単位は、選択必修Aには含まれません。

科目 区分	授 業 科 目	副 題 ・ 内 容	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
Ⅲ 金城展開科目	⑦ 教養科目	教 育 相 談 ■	学校における心のケア	101	2		
		大 学 で の 学 び ■ ※履修不可	高大接続連携授業	—	1		
	⑧ 情報教育科目	情 報 リ テ ラ シ ー ★	コンピュータ力を身につける	101	2		
		I T 活 用 A ■	3次元コンピュータ・グラフィックス	102	2		
		I T 活 用 B ■	動画作成編集	102	2		
		I T 活 用 C ■	プログラミング入門	102	2		
		I T 活 用 D ■	Web ページデザイン	102	2		
		I T 活 用 E ■ 生活マネジメント学科は履修不可	コンピュータ統計入門	102	2		
		I T 活 用 F ■	デスクトップ・パブリッシング	102	2		
		I T 活 用 G ■	コンピュータ・デザイン	102	2		
	I T 活 用 H ■ 生活環境学部は履修不可	コンピュータと薬学	102	2			
	⑨ S&E 教育科目	スポーツ・アンド・エクササイズA ■	テニスとゴルフ	101	1		
		スポーツ・アンド・エクササイズB ■	バドミントンとライトスポーツ	101	1		
		スポーツ・アンド・エクササイズC ■	卓球とフィットネスA（ヨガ・太極拳など）	101	1		
		スポーツ・アンド・エクササイズD ■	フィットネスB（体カトレーニング・ストレッチなど） と卓球	101	1		
		スポーツ・アンド・エクササイズE ■	ゴルフとバドミントン	101	1		
		スポーツ・アンド・エクササイズF ■	ライトスポーツとテニス	101	1		
		スポーツ・アンド・エクササイズG ■	ライトスポーツ	101		1	
		スポーツ・アンド・エクササイズH ■	ヘルシーエクササイズ	102			1
スポーツ・アンド・エクササイズ講義 ★		スポーツと健康	102		1		

※修得単位について…実践ビジネス英語A～E、海外ビジネス研修の修得単位については、自由履修の単位に含まれます。

科目 区分	授 業 科 目	副 題 ・ 内 容	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
⑩学生プロジェクト科目	キャリアプロジェクト ■	社会に参加する	103	2			
	里山プロジェクト ■	里山から見る日本の姿	103	2			
	KIDSセンタープロジェクト ■	KIDSセンター活動に参加する	103	2			
	ボランティアプロジェクト ■	ボランティアを实践する	103	2			
	訪問演奏プロジェクト ■	慰問演奏を行おう	103	2			
⑪海外研修科目	海外研修 A ■	北米	103	2			
	海外研修 B ■	イギリス	103	2			
	海外研修 C ■	オーストラリア	103	2			
	海外研修 D ■	中国	103	2			
	海外研修 E ■	その他の地域	103	2			
	海外留学準備講座 ■	留学への心構えや留学先の文化・社会的背景を学ぶ	101	1			
⑫実践ビジネス英語科目	実践ビジネス英語 A 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 550以上を目指す	103	1			
	実践ビジネス英語 B 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 600以上を目指す	103	1			
	実践ビジネス英語 C 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 650以上を目指す	103		1		
	実践ビジネス英語 D 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 700以上を目指す	103			1	
	実践ビジネス英語 E 選抜者以外は履修不可	英語のレポート作成方法を学ぶ	103				1
	海外ビジネス研修 選抜者以外は履修不可	カナダでビジネスコミュニケーションを学ぶ	103		1		

各教科の指導法・教育の基礎的理解に関する科目等（中・高・栄養免許）

授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
国 語 科 指 導 法 A	102	4			
国 語 科 指 導 法 B	102	2			
国 語 科 指 導 法 C	102	2			
社会科・地理歴史科指導法A	102	2			
社会科・地理歴史科指導法B	102	2			
社会科・公民科指導法A	102	2			
社会科・公民科指導法B	102	2			
理 科 指 導 法 A	102	4			
理 科 指 導 法 B	102	2			
理 科 指 導 法 C	102	2			
音 楽 科 指 導 法 A	102	4			
音 楽 科 指 導 法 B	102		2		
音 楽 科 指 導 法 C	102		2		
家 庭 科 指 導 法 A	102	4			
家 庭 科 指 導 法 B	102		2		
家 庭 科 指 導 法 C	102		2		
英 語 科 指 導 法 A	102	4			
英 語 科 指 導 法 B	102		2		
英 語 科 指 導 法 C	102		2		
書 道 科 指 導 法	102	4			
情 報 科 指 導 法	102	4			
福 祉 科 指 導 法	102	4			

授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
学 校 と 教 育 の 歴 史	101	2			
教 職 入 門	101	2			
教 育 社 会 学	102		2		
発 達 と 学 習	101	2			
特別支援教育の理論と方法	102		2		
教 育 課 程 論	102			2	
道徳教育の理論と方法	102			2	
総合的な学習の時間の指導法	102		2		
特 別 活 動 の 指 導 法	102			2	
教育の方法及び 情報通信技術の活用	102		2		
生徒・進路指導と キャリア教育の理論と方法	102			2	
教 育 相 談	101	2			
教 育 実 習 A	103				5
教 育 実 習 B	103				3
教職実践演習（中高）	103				2
教職実践演習（栄養教諭）	103				2

日本語科目・日本事情に関する科目

外国人留学生以外で履修を希望する場合は、
国際交流センターに問い合わせてください。

科目区分	授 業 科 目	科目分類 番号	単位数
日本語科目	日 本 語 2 1 1	102	1
	日 本 語 2 1 2	102	1
	日 本 語 2 1 3	102	1
	日 本 語 2 1 4	102	1
	日 本 語 2 1 5	102	1
	日 本 語 2 2 1	102	1
	日 本 語 2 2 2	102	1
	日 本 語 2 2 3	102	1
	日 本 語 2 2 4	102	1
	日 本 語 2 2 5	102	1
	日 本 語 3 1 1	103	1
	日 本 語 3 1 2	103	1
	日 本 語 3 1 3	103	1
	日 本 語 3 1 4	103	1
	日 本 語 3 1 5	103	1
	日 本 語 3 2 1	103	1
	日 本 語 3 2 2	103	1
	日 本 語 3 2 3	103	1
	日 本 語 3 2 4	103	1
	日 本 語 3 2 5	103	1
日 本 語 4 1 1	103	1	
日 本 語 4 1 2	103	1	
日 本 語 4 2 1	103	1	
日 本 語 4 2 2	103	1	

科目区分	授 業 科 目	科目分類 番号	単位数
日本事情に関する科目	日 本 事 情 A	102	2
	日 本 事 情 B	102	2
	日 本 事 情 C	102	2
	日 本 事 情 D	102	2
	インディペンデント・スタディ	103	2

1 カリキュラム・ツリー

カリキュラム・ツリーとは、専門教育科目のカリキュラムにおいて、学生が卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性を系統図的に可視化したものです。カリキュラムの年次進行、授業科目間のつながりなど、カリキュラムの体系性が一望できるようになっています。

生活マネジメント学科

青字は必修科目

		1 年	2 年	3 年	4 年	
学科基礎科目		生活経済学(1) 生活と法律(1) 生活統計学(1) 情報処理演習(1) 生活マネジメント基礎A 生活マネジメント基礎B	生活経営学 消費者政策論 家族関係学(1) 情報処理論 情報処理演習(2) 生活設計論	消費者教育論 生活情報論 家族福祉学 生活情報システム論 生活調査法(1)		
展開科目	生活環境学 基礎科目		衣生活概論 住居学概論（製図を含む） 保育学（実習及び家庭看護を含む）	食物学（栄養学・食品学を含む） 家庭電気・機械 被服製作実習 調理実習		
	コース 共通科目	消費生活比較論 法律学概論 プログラミング基礎 ジェンダーと生活	簿記基礎 簿記応用 インターネットビジネス プログラミング応用 生活統計学(2) ライフコース論 生活と法律(2) 経済学概論 都市計画学	インクルーシブデザイン論 家族法 情報倫理論 インターネットプログラミング 情報通信ネットワーク論 マルチメディア表現技術 モデル化とシミュレーション 消費者教育実践論 障害者教育論 国際社会と法 現代社会とA I		
		衣生活マネジメント論 住生活マネジメント論 食生活マネジメント論				
	養成コース 展開科目	コース 基礎科目*		生活経済学(2)	消費者運動論 商法概論	
		コース 選択科目	消費者商品学 消費者心理学	ファイナンシャルプランニングA～D 消費マーケティング論 消費生活コンサルティング論	ビジネス法務 消費者法 消費財流通論 建築法規 金融商品学 生活リスクマネジメント論	
	養成コース 展開科目	コース 基礎科目*		男女共同参画社会論	データベース技術 生活調査法(2)	
		コース 選択科目	共生社会論 政治学概論	家族心理学 介護福祉論 刑法 情報職業論	現代社会と情報 家族関係学(2) 公的扶助論 行政法	
			公務員基礎A～D			
	研究演習科目		入門演習	基本演習(1)	基本演習(2)	専門演習 卒業論文

*各コースの必修科目

環境デザイン学科

青字は学科必修科目

		1 年	2 年	3 年	4 年
学科 基礎科目		デザイン基礎実習(1)・(2) 色彩学 色彩学演習 インクルーシブデザイン論	造形デザイン実習A・B カラーコーディネート特別演習	造形デザイン実習C 人間工学 インクルーシブデザイン特論 消費マーケティング論 消費者心理学 消費財流通論 インターネットビジネス	
生活環境学 基礎科目		衣生活概論	住居学概論(製図を含む) 保育学(実習及び家庭看護を含む)	現代家族論(家族関係学を含む) 生活経営学(家庭経済学を含む) 食物学(栄養学、食品学を含む) 家庭電気・機械 被服製作実習 調理実習	
展開科目	アパレル系科目	アパレル構成学 テキスタイル材料学(1) ファッションデザイン論	着心地の科学 アパレル生産システム テキスタイル材料学(2) 洗浄科学 染色加工学 ファッションビジネス 消費科学 インクルーシブデザイン演習	服飾文化史 市場調査法 ファッションビジネス演習 アパレル品質管理演習	ファッション心理学
		ファッションデザイン画(1) 人体とパターンメイキング ファッション造形実習(1) 応用パターンメイキング	環境生理学実験 テキスタイル材料学実験 ファッションデザイン画(2) アパレル企画実習 コンピュータテキスタイルデザイン ファッション造形実習(2)・(3)	洗浄・染色加工実験 アパレル生産システム実習 テキスタイル実習A・B コンピュータパターンメイキング バーチャルファッションコーディネート ドレーピングの基礎 ファッション造形実習(4)	
	空間デザイン系科目	建築数学 空間デザイン概論 近代建築史 インテリアデザイン史 建築一般構造 住居計画	建築計画学 インテリアデザイン論 空間デザイン特論A・B 室内環境学(1) 建築構造力学(1)・(2) 都市計画学 西洋建築史	住生活論 居住福祉論 日本建築史 室内環境学(2) 建築設備 建築構造設計演習 建築材料学 都市設計論 造園学 インテリア材料学 建築法規 建築構造力学演習	建築施工 建築学演習
	空間デザイン基礎製図 空間デザイン基礎実習	空間デザイン実習(1)・(2) 空間CAD実習(基礎)	建築測量 建築材料学実験 空間デザイン実習A・B インテリア空間デザイン実習A・B 空間CAD実習(3D)	空間デザイン実習C	
研究演習 科目	入門演習	基礎演習	環境デザイン演習	卒業研究演習 卒業論文・制作	
研修科目	環境デザイン特別研修A・B 環境デザイン学外研修A・B				

*各コースの必修科目については、課程表で確認してください。

食環境栄養学科

青字は必修科目

		1 年	2 年	3 年	4 年	
学科基礎科目		基礎化学 食環境論 基礎有機化学	分析化学	医療統計学 情報処理	管理栄養士特論 A・B 管理栄養士特論 C・D 栄養教育実習 (事前事後指導を含む)	
展開科目	生活環境学 基礎科目		衣生活概論 住居学概論 (製図を含む)	家庭電気・機械 被服製作実習	生活経営学 (家庭経済学を含む)	
			保育学 (実習及び家庭看護を含む)			
			現代家族論 (家族関係学を含む)			
	専門基礎分野	社会・環境 と健康		公衆衛生学(1)(2)	社会保健学	
		人体の 構造と 機能及び 疾病の 成り立ち	解剖生理学(1) 生化学(1)	病原微生物学 解剖生理学実験(1) 病理学総論 生化学(2) 生化学実験(1)	解剖生理学(2) 解剖生理学実験(2) 病理学各論 生化学実験(2)	
		食べ物 と 健康	食品学(1)(2) 食品学実験(1) 調理学 調理学実習(1)(2)	食品学実験(2) 調理学実習(3)	食品衛生学 食品衛生学実験	食品機能学
	専門分野	基礎 栄養学	基礎栄養学 栄養学実習			
		応用 栄養学		応用栄養学総論 母子栄養学 加齢栄養学	応用栄養学実習	
		栄養 教育学		栄養教育原論	栄養教育各論 栄養教育論実習 栄養カウンセリング論 栄養カウンセリング実習	
		臨床 栄養学		栄養アセスメント論 臨床栄養管理論 疾病別栄養管理論 疾病別栄養管理実習	臨床栄養学 臨床栄養学実習	臨床栄養学特論
		公衆 栄養学		公衆栄養学(1)	公衆栄養学(2)	公衆栄養学実習
		給食経営 管理論		給食経営管理論	フードマネージメント論 給食経営管理実習	
					学校の食指導法 食教育指導法	
	社会環境系 科目		食システム論			
			子どもの発達と生活環境			
			社会心理学概論 臨床心理学概論			
	総合演習		栄養総合演習			
	臨地実習		臨地実習			
研究演習科目	食環境学演習(1)		食環境学演習(2)	食環境学演習(3) 卒業論文		

生活マネジメント学科

2 ファイナンシャルプランナー養成コース 課程表

生活マネジメント学科の学生は、ファイナンシャルプランナー養成コース、教員・公務員養成コースのいずれかの履修コースを選択し、それぞれのコースの履修方法に従って授業科目を履修します。1年次4月には、仮コース分けを行います。2年次4月より正式にコースに分かれます。

科目の★印は必修、◎はコース必修、○は選択必修

学科基礎科目					
学科基礎科目 30単位必修					
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
生活経営学★	332		2		
生活経済学(1)★	331	2			
消費者教育論★	333			2	
生活情報論★	332			2	
消費者政策論★	332		2		
生活と法律(1)★	331	2			
家族関係学(1)★	332		2		
家族福祉学★	333			2	
生活統計学(1)★	331	2			
情報処理論★	332		2		
生活情報システム論★	332			2	
情報処理演習(1)★	331	1			
情報処理演習(2)★	332		1		
生活設計論★	332		2		
生活調査法(1)★	332			2	
生活マネジメント基礎A★	331	1			
生活マネジメント基礎B★	331	1			

展開科目					
展開科目 合計34単位 (コース基礎科目 6単位必修) (コース共通科目 14単位選択必修) (コース選択科目 14単位選択必修) + 全ての専門教育科目から1単位選択必修					
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
生活環境学基礎科目	衣生活概論	332	2		
	食物学(栄養学・食品学を含む)	332		2	
	住居学概論(製図を含む)	332		2	
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	332		2	
	家庭電気・機械	332			2
	被服製作実習	332			2
	調理実習	332			2
	消費生活比較論○	332	2		
コース共通科目	簿記基礎○	332		2	
	簿記応用○	333		2	
	インターネットビジネス○	332		2	
	プログラミング応用○	332		2	
	生活統計学(2)○	332		2	
	ライフコース論○	332		2	
	インクルーシブデザイン論○	332			2
	生活と法律(2)○	332		2	
	家族法○	332			2
	法律学概論○	331	2		
	経済学概論○	332		2	
	情報倫理論○	332			2
プログラミング基礎○	332	2			

展開科目							
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年		
インターネットプログラミング ○	333			2			
情報通信ネットワーク論 ○	332			2			
マルチメディア表現技術 ○	333			2			
モデル化とシミュレーション ○	333			2			
衣生活マネジメント論 ○	331	2					
住生活マネジメント論 ○	331	2					
食生活マネジメント論 ○	331	2					
都 市 計 画 学 ○	332		2				
消費者教育実践論 ○	333			2			
ジェンダーと生活 ○	331	2					
障害者教育論 ○	332			2			
国際社会と法 ○	332			2			
現代社会とAI ○	332			2			
コース共通科目	フ ァ イ ナ ン シ ャ ル プ ラ ン ナ ー 養 成 コ ー ス 基 礎 科 目	生活経済学(2) ◎	332	2			
		消費者運動論 ◎	332		2		
		商法概論 ◎	332		2		
	フ ァ イ ナ ン シ ャ ル プ ラ ン ナ ー 養 成 コ ー ス 展 開 科 目	フ ァ イ ナ ン シ ャ ル プ ラ ン ナ ー 養 成 コ ー ス 選 択 科 目	ファイナンシャルプランニングA ○	333	2		
			ファイナンシャルプランニングB ○	333	2		
			ファイナンシャルプランニングC ○	333	2		
			ファイナンシャルプランニングD ○	333	2		
			ビジネス法務 ○	332		2	
			消費マーケティング論 ○	332	2		
			消費者商品学 ○	331	2		
			消費者法 ○	332		2	
			消費者心理学 ○	331	2		
			消費財流通論 ○	332		2	
建築法規 ○	332		2				
金融商品学 ○	333		2				
生活リスクマネジメント論 ○	333		2				
消費生活コンサルティング論 ○	332		2				

展開科目						
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数				
		1年	2年	3年	4年	
教員・公務員養成コース展開科目	教員・公務員養成コース展開科目	男女共同参画社会論	332		2	
		データベース技術	332			2
		生活調査法(2)	332			2
		共生社会論	331	2		
		現代社会と情報	332			2
		家族関係学(2)	333			2
		公的扶助論	332			2
		家族心理学	332		2	
		介護福祉論	332		2	
		行政法	332			2
		刑法	332		2	
		政治学概論	332	2		
		情報職業論	332		2	
		公務員基礎A	333			2
		公務員基礎B	333			2
		公務員基礎C	333			2
公務員基礎D	333			2		

研究演習科目					
研究演習科目 5単位必修					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
入 門 演 習 ★	331	1			
基 本 演 習 (1) ★	332		1		
基 本 演 習 (2) ★	332			1	
専 門 演 習 ★	333				2
卒 業 論 文	333				4

生活マネジメント学科

3 教員・公務員養成コース 課程表

生活マネジメント学科の学生は、ファイナンシャルプランナー養成コース、教員・公務員養成コースのいずれかの履修コースを選択し、それぞれのコースの履修方法に従って授業科目を履修します。1年次4月には、仮コース分けを行います。2年次4月より正式にコースに分かれます。

科目の★印は必修、◎はコース必修、○は選択必修

学科基礎科目					
学科基礎科目 30単位必修					
授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
生活経営学★	332		2		
生活経済学(1)★	331	2			
消費者教育論★	333			2	
生活情報論★	332			2	
消費者政策論★	332		2		
生活と法律(1)★	331	2			
家族関係学(1)★	332		2		
家族福祉学★	333			2	
生活統計学(1)★	331	2			
情報処理論★	332		2		
生活情報システム論★	332			2	
情報処理演習(1)★	331	1			
情報処理演習(2)★	332		1		
生活設計論★	332		2		
生活調査法(1)★	332			2	
生活マネジメント基礎A★	331	1			
生活マネジメント基礎B★	331	1			

展開科目					
展開科目 合計34単位 (コース基礎科目 6単位必修) (コース共通科目 14単位選択必修) (コース選択科目 14単位選択必修) + 全ての専門教育科目から1単位選択必修					
授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
生活環境学基礎科目	衣生活概論	332	2		
	食物学(栄養学・食品学を含む)	332		2	
	住居学概論(製図を含む)	332		2	
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	332		2	
	家庭電気・機械	332			2
	被服製作実習	332			2
	調理実習	332			2
	消費生活比較論○	332	2		
コース共通科目	簿記基礎○	332	2		
	簿記応用○	333	2		
	インターネットビジネス○	332	2		
	プログラミング応用○	332	2		
	生活統計学(2)○	332	2		
	ライフコース論○	332	2		
	インクルーシブデザイン論○	332			2
	生活と法律(2)○	332	2		
	家族法○	332			2
	法律学概論○	331	2		
	経済学概論○	332		2	
	情報倫理論○	332			2
プログラミング基礎○	332	2			

展開科目					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
インターネットプログラミング ○	333			2	
情報通信ネットワーク論 ○	332			2	
マルチメディア表現技術 ○	333			2	
モデル化とシミュレーション ○	333			2	
衣生活マネジメント論 ○	331	2			
住生活マネジメント論 ○	331	2			
食生活マネジメント論 ○	331	2			
都市計画学 ○	332		2		
消費者教育実践論 ○	333			2	
ジェンダーと生活 ○	331	2			
障害者教育論 ○	332			2	
国際社会と法 ○	332			2	
現代社会とAI ○	332			2	
ファイナンシャルプランナー養成コース展開科目	生活経済学(2)	332	2		
	消費者運動論	332		2	
	商法概論	332		2	
	ファイナンシャルプランニングA	333	2		
	ファイナンシャルプランニングB	333	2		
	ファイナンシャルプランニングC	333	2		
	ファイナンシャルプランニングD	333	2		
	ビジネス法務	332		2	
	消費マーケティング論	332	2		
	消費者商品学	331	2		
	消費者法	332		2	
	消費者心理学	331	2		
	消費財流通論	332		2	
建築法規	332		2		
金融商品学	333		2		
生活リスクマネジメント論	333		2		
消費生活コンサルティング論	332		2		

展開科目					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
教員・公務員養成コース展開科目	男女共同参画社会論 ◎	332	2		
	データベース技術 ◎	332		2	
	生活調査法(2) ◎	332		2	
教員・公務員養成コース選択科目	共生社会論 ○	331	2		
	現代社会と情報 ○	332		2	
	家族関係学(2) ○	333		2	
	公的扶助論 ○	332		2	
	家族心理学 ○	332	2		
	介護福祉論 ○	332	2		
	行政法 ○	332		2	
	刑法 ○	332	2		
	政治学概論 ○	332	2		
	情報職業論 ○	332	2		
	公務員基礎A ○	333		2	
	公務員基礎B ○	333		2	
	公務員基礎C ○	333		2	
	公務員基礎D ○	333		2	

研究演習科目					
研究演習科目 5単位必修					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
入 門 演 習 ★	331	1			
基 本 演 習 (1) ★	332		1		
基 本 演 習 (2) ★	332			1	
専 門 演 習 ★	333				2
卒 業 論 文	333				4

4 環境デザイン学科 コース別最低修得単位数

×印の科目は、他コースの学生を優先するため、×印コースの学生は履修できない場合があります。

環境デザイン学科の学生は、アパレル・ファッションコース、空間デザインコースのいずれかの履修コースを選択し、それぞれのコースの履修方法に従って授業科目を履修します。1年次4月には、仮コース分けを行います。2年次4月より正式にコースに分かれます。

コース別最低修得単位数

アパレル・ファッションコース		空間デザインコース	
学科基礎科目 (必修)	13単位 13単位	学科基礎科目 (必修)	9単位 9単位
展開科目 (必修) (選択必修)	40単位 19単位 21単位	展開科目 (必修)	38単位 38単位
研究演習科目 (必修)	5単位 5単位	研究演習科目 (必修)	5単位 5単位
上記以外の専門教育科目 (選択必修)	12単位 6単位 ※1)	上記以外の専門教育科目 (選択必修)	18単位 18単位 ※1)
自由履修	28単位 ※2	自由履修	28単位 ※2
計	98単位	計	98単位

※1 上記以外の専門教育科目

選択必修6単位は、 選択必修科目☆から履修すること	選択必修9単位は、☆1から履修すること 残りの選択必修9単位は、☆1～☆2から履修すること
------------------------------	--

※2 自由履修については、大学3ページ参照。

環境デザイン学科

5 アパレル・ファッションコース 課程表

科目名の★印は必修、☆は選択必修、×印は他コース優先科目

学科基礎科目					
学科基礎科目 13単位必修					
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
デザイン基礎実習(1) ★	341	2			
デザイン基礎実習(2) ★	342	2			
造形デザイン実習A ☆	342		2		
造形デザイン実習B ☆	342		2		
造形デザイン実習C ☆	343			1	
色彩学 ★	342	2			
色彩学演習 ★	342	1			
カラーコーディネート特別演習 ☆	343		1		
人間工学 ★	342			2	
インクルーシブデザイン論 ★	342	2			
インクルーシブデザイン特論 ★	343			2	
消費マーケティング論	303			2	
消費者心理学	303			2	
消費財流通論	303			2	
インターネットビジネス	303			2	

展開科目					
展開科目 合計40単位 必修 19単位 選択必修 21単位 + 全ての専門教育科目から12単位(選択必修6単位含む)					
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
生活環境学基礎科目	現代家族論(家族関係学を含む)	302			2
	生活経営学(家庭経済学を含む)	302			2
	衣生活概論 ★	302	2		
	食物学(栄養学・食品学を含む)	302			2
	住居学概論(製図を含む) ☆	302		2	

展開科目						
	授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
			1年	2年	3年	4年
生活環境学基礎科目	保育学(実習及び家庭看護を含む)	302		2		
	家庭電気・機械	302			2	
	被服製作実習 ×	302			2	
	調理実習	302			2	
	アパレル構成学 ★	342	2			
アパレル系科目	着心地の科学 ★	342		2		
	アパレル生産システム ★	343		2		
	テキスタイル材料学(1) ★	342	2			
	テキスタイル材料学(2) ☆	342		2		
	洗浄科学 ★	342	2			
	染色加工学 ☆	342		2		
	ファッションデザイン論 ★	342	2			
	ファッション心理学 ☆	342				2
	服飾文化史 ☆	343			2	
	ファッションビジネス ☆	342		2		
	市場調査法 ☆	343			2	
	消費科学 ☆	343		2		
	環境生理学実験 ☆	342		2		
	テキスタイル材料学実験 ☆	343		2		
	洗浄・染色加工実験 ☆	343			2	
	ファッションデザイン画(1) ★	342	1			
	ファッションデザイン画(2) ☆	343		1		
	アパレル企画実習 ☆	343		2		
	アパレル生産システム実習 ☆	343			2	
	テキスタイル実習A ☆	343			1	
テキスタイル実習B ☆	343			1		
コンピュータパターンメイキング ☆	343			1		

展開科目					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
コンピュータテキストデザイン ☆	342		1		
バーチャルファッションコーディネート ☆	343			1	
人体とパターンメイキング ★	342	2			
応用パターンメイキング ☆	343	1			
ドレーピングの基礎 ☆	342			1	
ファッション造形実習(1) ★	341	2			
ファッション造形実習(2) ☆	342		2		
ファッション造形実習(3) ☆	342		2		
ファッション造形実習(4) ☆	343			2	
インクルーシブデザイン演習 ☆	343		1		
ファッションビジネス演習 ☆	343			1	
アパレル品質管理演習 ☆	343			1	
建 築 数 学	342	1			
空間デザイン概論 ☆	341	2			
住 居 計 画	342	2			
住 生 活 論	343			2	
建 築 計 画 学 ☆	342		2		
居 住 福 祉 論 ☆	343			2	
インテリアデザイン論 ☆	342		2		
空間デザイン特論 A	342		2		
空間デザイン特論 B	342		2		
日 本 建 築 史	343			2	
西 洋 建 築 史	343			2	
近 代 建 築 史	342	2			
インテリアデザイン史 ☆	342	2			
室内環境学(1) ☆	342		2		
室内環境学(2) ☆	343			2	

展開科目					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
建 築 設 備	343			2	
建 築 一 般 構 造	342	2			
建 築 構 造 力 学 (1)	342		2		
建 築 構 造 力 学 (2)	342		2		
建 築 構 造 設 計 演 習 ×	343			1	
建 築 材 料 学	343			2	
建 築 材 料 学 実 験 ×	343			2	
都 市 計 画 学	342		2		
都 市 設 計 論	343			2	
造 園 学	343			2	
イ ン テ リ ア 材 料 学 ☆	343			2	
建 築 法 規	343			2	
建 築 施 工	343				2
建 築 測 量 ×	343			1	
空間デザイン基礎製図 ×	341	2			
空間デザイン基礎実習 ☆	342	2			
空間デザイン実習(1) ☆	342		2		
空間デザイン実習(2) ×	342		2		
空間デザイン実習 A ×	343			2	
空間デザイン実習 B ×	343			2	
空間デザイン実習 C ×	343				2
インテリア空間デザイン実習 A ☆	343			2	
インテリア空間デザイン実習 B ×	343			2	
空間 C A D 実習(基礎) ☆	342		1		
空間 C A D 実習(3D) ×	343			2	
建 築 構 造 力 学 演 習 ×	343			1	
建 築 学 演 習 ×	343				1

研究演習科目					
研究演習科目 5単位必修					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
入 門 演 習 ★	341	1			
基 礎 演 習 ★	341		1		
環 境 デ ザ イ ン 演 習 ★	343			1	
卒 業 研 究 演 習 ★	343				2
卒 業 論 文 ・ 制 作	343				6

研修科目					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
環 境 デ ザ イ ン 特 別 研 修 A	342		2		
環 境 デ ザ イ ン 特 別 研 修 B	342		2		
環 境 デ ザ イ ン 学 外 研 修 A	342		1		
環 境 デ ザ イ ン 学 外 研 修 B	342		1		

環境デザイン学科

6 空間デザインコース 課程表

科目名の★印は必修、☆は選択必修、×印は他コース優先科目

学科基礎科目					
学科基礎科目 9単位必修					
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
デザイン基礎実習(1) ★	341	2			
デザイン基礎実習(2) ★	342	2			
造形デザイン実習A ☆2	342		2		
造形デザイン実習B ☆2	342		2		
造形デザイン実習C ☆2	343			1	
色彩学 ★	342	2			
色彩学演習 ★	342	1			
カラーコーディネート特別演習 ☆2	343		1		
人間工学 ★	342			2	
インクルーシブデザイン論 ☆2	342	2			
インクルーシブデザイン特論 ☆2	343			2	
消費マーケティング論	303			2	
消費者心理学	303			2	
消費財流通論	303			2	
インターネットビジネス	303			2	

展開科目					
展開科目 38単位必修 + 全ての専門教育科目から18単位 (☆1から9単位) (☆1～☆2から9単位)					
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
生活環境学基礎科目	現代家族論(家族関係学を含む)	302			2
	生活経営学(家庭経済学を含む)	302			2
	衣生活概論	302	2		
	食物学(栄養学・食品学を含む)	302			2
	住居学概論(製図を含む) ×	302		2	

展開科目						
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数				
		1年	2年	3年	4年	
生活環境学基礎科目	保育学(実習及び家庭看護を含む)	302		2		
	家庭電気・機械	302			2	
	被服製作実習	302			2	
	調理実習	302			2	
	アパレル系科目	アパレル構成学 ☆2	342	2		
		着心地の科学 ☆2	342		2	
		アパレル生産システム	343		2	
		テキスタイル材料学(1) ☆2	342	2		
		テキスタイル材料学(2) ☆2	342		2	
		洗浄科学	342		2	
染色加工学 ☆2		342		2		
ファッションデザイン論 ☆2		342	2			
ファッション心理学 ☆2		342			2	
服飾文化史 ☆2		343			2	
アパレル系科目	ファッションビジネス ☆2	342		2		
	市場調査法 ☆2	343			2	
	消費科学 ☆2	343		2		
	環境生理学実験 ☆2	342		2		
	テキスタイル材料学実験 ×	343		2		
	洗浄・染色加工実験 ×	343			2	
	ファッションデザイン画(1) ×	342	1			
	ファッションデザイン画(2) ×	343		1		
	アパレル企画実習 ×	343			2	
	アパレル生産システム実習 ×	343			2	
テキスタイル実習A ×	343			1		
テキスタイル実習B ×	343			1		
コンピュータパターンメイキング ×	343			1		

展開科目					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
アパレル系科目	コンピュータテキストデザイン ☆2	342	1		
	バーチャルファッションコーディネート ×	343		1	
	人体とパターンメイキング ×	342	2		
	応用パターンメイキング ×	343	1		
	ドレーピングの基礎 ×	342		1	
	ファッション造形実習(1) ☆2	341	2		
	ファッション造形実習(2) ×	342	2		
	ファッション造形実習(3) ×	342	2		
	ファッション造形実習(4) ×	343		2	
	インクルーシブデザイン演習 ☆2	343	1		
	ファッションビジネス演習 ×	343		1	
	アパレル品質管理演習 ×	343		1	
	空間デザイン系科目	建 築 数 学 ★	342	1	
空 間 デ ザ イン 概 論 ★		341	2		
住 居 計 画 ★		342	2		
住 生 活 論 ☆1		343		2	
建 築 計 画 学 ★		342	2		
居 住 福 祉 論 ☆1		343		2	
インテリアデザイン論 ☆1		342	2		
空 間 デ ザ イン 特 論 A ★		342	2		
空 間 デ ザ イン 特 論 B ☆1		342	2		
日 本 建 築 史 ☆1		343		2	
西 洋 建 築 史 ☆1		343		2	
近 代 建 築 史 ★		342	2		
インテリアデザイン史 ☆1		342	2		
室 内 環 境 学 (1) ★		342	2		
室 内 環 境 学 (2) ☆1	343		2		

展開科目					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
空間デザイン系科目	建 築 設 備 ★	343		2	
	建 築 一 般 構 造 ★	342	2		
	建 築 構 造 力 学 (1) ★	342	2		
	建 築 構 造 力 学 (2) ☆1	342	2		
	建 築 構 造 設 計 演 習 ☆1	343		1	
	建 築 材 料 学 ★	343		2	
	建 築 材 料 学 実 験 ☆1	343		2	
	都 市 計 画 学 ★	342	2		
	都 市 設 計 論 ☆1	343		2	
	造 園 学 ☆1	343		2	
	イ ン テ リ ア 材 料 学 ☆1	343		2	
	建 築 法 規 ★	343		2	
	建 築 施 工 ★	343		2	
	建 築 測 量 ☆1	343		1	
	空 間 デ ザ イン 基 礎 製 図 ★	341	2		
	空 間 デ ザ イン 基 礎 実 習 ★	342	2		
	空 間 デ ザ イン 実 習 (1) ★	342	2		
	空 間 デ ザ イン 実 習 (2) ★	342	2		
	空 間 デ ザ イン 実 習 A ☆1	343		2	
	空 間 デ ザ イン 実 習 B ☆1	343		2	
	空 間 デ ザ イン 実 習 C ☆1	343		2	
	イ ン テ リ ア 空 間 デ ザ イン 実 習 A ☆1	343		2	
	イ ン テ リ ア 空 間 デ ザ イン 実 習 B ☆1	343		2	
空 間 C A D 実 習 (基 礎) ★	342	1			
空 間 C A D 実 習 (3 D) ★	343		2		
建 築 構 造 力 学 演 習 ☆1	343		1		
建 築 学 演 習 ☆1	343		1		

研究演習科目					
研究演習科目 5単位必修					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
入 門 演 習 ★	341	1			
基 礎 演 習 ★	341		1		
環 境 デ ザ イ ン 演 習 ★	343			1	
卒 業 研 究 演 習 ★	343				2
卒 業 論 文 ・ 制 作	343				6

研修科目					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
環 境 デ ザ イ ン 特 別 研 修 A	342		2		
環 境 デ ザ イ ン 特 別 研 修 B	342		2		
環 境 デ ザ イ ン 学 外 研 修 A	342		1		
環 境 デ ザ イ ン 学 外 研 修 B	342		1		

大学編

履修要項・
履修案内

大学編

学籍上の
手続き

大学編

教務事務の
取扱い

大学編

履修規程

学部編

ポリシー

学部編

卒業要件
単位数(詳細)

学部編

学科独自の
制度

学部編

科目分類番号

学部編

共通教育科目
等の課程表

学部編

専門教育科目の
カリキュラム(シリー
および課程表

学部編

教免取得に
関する
教育課程表

学部編

各種資格

7 食環境栄養学科 課程表

科目名の★印は必修、☆は選択必修

学科基礎科目					
学科基礎科目 8単位必修+2単位選択必修					
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
基礎化学★	352	2			
基礎有機化学☆	351	2			
分析化学☆	351		2		
食環境論★	352	2			
医療統計学	351			2	
情報処理	351			1	
栄養教育実習(事前事後指導を含む)	351				2
管理栄養士特論A★	352				2
管理栄養士特論B★	352				2
管理栄養士特論C	351				2
管理栄養士特論D	351				2

展開科目					
展開科目 82単位必修					
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
生活環境学基礎科目	現代家族論(家族関係学を含む)	351			2
	生活経営学(家庭経済学を含む)	351			2
	衣生活概論	351	2		
	住居学概論(製図を含む)	351	2		
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	351		2	
	家庭電気・機械	351			2
	被服製作実習	351			2
	社会保健学★	353			2
	公衆衛生学(1)★	353		2	
	公衆衛生学(2)★	353		2	
専門基礎分野	病原微生物学★	353		2	
	解剖生理学(1)★	353	2		
	解剖生理学(2)★	353			2
	解剖生理学実験(1)★	353		1	
	解剖生理学実験(2)★	353			1
	病理学総論★	353		2	
	病理学各論★	353			2
	生化学(1)★	353	2		
	生化学(2)★	353		2	
	生化学実験(1)★	353		1	
	生化学実験(2)★	353			1
	食品学(1)★	353	2		
	食品学(2)★	353	2		
	食品学実験(1)★	353	1		
	食品学実験(2)★	353		1	
食品衛生学★	353			2	

展開科目						
	授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
			1年	2年	3年	4年
専門基礎分野	食品衛生学実験★	353			1	
	調理学★	353	2			
	調理学実習(1)★	353	1			
	調理学実習(2)★	353	1			
	調理学実習(3)★	353		1		
	食品機能学	353				2
専門分野	基礎栄養学★	353	2			
	栄養学実習★	353	1			
	応用栄養学総論★	353		2		
	母子栄養学★	353		2		
	加齢栄養学★	353		2		
	応用栄養学実習★	353			1	
	栄養教育原論★	353		2		
	栄養教育各論★	353		2		
	栄養教育論実習★	353		1		
	栄養カウンセリング論★	353		2		
	栄養カウンセリング実習★	353		1		
	臨床栄養学★	353		2		
	栄養アセスメント論★	353		2		
	臨床栄養管理論★	353		2		
	疾病別栄養管理論★	353		2		
	疾病別栄養管理実習★	353		1		
	臨床栄養学実習★	353			1	
	臨床栄養学特論	353				2
	公衆栄養学(1)★	353		2		
	公衆栄養学(2)★	353			2	
公衆栄養学実習★	353				1	
給食経営管理論★	353		2			
フードマネジメント論★	353			2		

展開科目						
	授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
			1年	2年	3年	4年
専門分野	給食経営管理実習★	353			1	
	学校の食指導法	351			2	
	食教育指導法	351			2	
社会環境系科目群	食システム論	351		2		
	子どもの発達と生活環境	351			2	
	社会心理学概論	351			2	
	臨床心理学概論	351			2	
総合演習	栄養総合演習★	353			2	
臨地実習	臨地実習★	353			4	

研究演習系科目群					
研究演習系科目群 3単位必修					
授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
食環境学演習(1)★	353	1			
食環境学演習(2)★	352			1	
食環境学演習(3)★	352				1
卒業論文	351				8

1 中高免教職課程について

〔1〕教職課程とは？

中学校や高校で授業を行うためには教員免許状が必要です。その取得のために必要な科目を開講し、教職課程を設けています。教育職員免許法や教育職員免許法施行規則等に定められた単位を修得することで、卒業時に教員免許状を取得できます。

教職に関心がある学生は、1年次から「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目等」を履修してください。教職課程の申し込みは2年生の夏、教育実習の申し込みは3年生（薬学部は5年生）の春に行います。自信を持って教えられるように、教科と教職の両方の専門性を伸ばす努力をしてください。

本学の中高免教職課程を履修することにより授与される免許状の種類等は、次の通りです。私たち、中高免教職課程担当教員、職員は金城学院大学卒業生が一人でも多く、教育現場の教壇に立つことを願っています。

学 部	学 科		免許状の種類	免許教科
文学部	日本語日本文化学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国 語 国 語 書 道
	英語英米文化学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語 英 語
	外国語コミュニケーション学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語 英 語
	音楽芸術学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	音 楽 音 楽
生活環境学部	生活マネジメント学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭 情 報
	環境デザイン学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭
	食環境栄養学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭
国際情報学部	国際情報 学科	グローバル スタディーズコース	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 地 理 歴 史 公 民
		メディアスタディーズコース	高等学校教諭一種免許状	情 報
人間科学部	現代子ども教育学科		中学校教諭一種免許状	英 語
	多元心理学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 公 民
	コミュニティ福祉学科		高等学校教諭一種免許状	福 祉
薬学部	薬学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	理 科 理 科

〔2〕教職課程の履修に必要な単位

教育職員免許状を取得するためには、基礎資格として学士の資格を有することが必要です。つまり、所定の単位を修得して本学を卒業することが前提となります。

その上で、教職課程の履修には教育職員免許法施行規則に定める、次の4種類の科目の修得が必要です。最低修得単位数は教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数であり、本学で修得しなければならない単位数については後掲の表を参照してください。

施行規則に定める科目区分等	最低修得単位数	
	中一種	高一種
①教科及び教科の指導法に関する科目	28	24
②教育の基礎的理解に関する科目等	27	23
③大学が独自に設定する科目	4	12
④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8	8
合計	67	67

①教科及び教科の指導法に関する科目

生活マネジメント学科

○中一種免「家庭」

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数										
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	必修科目		学年		単位		選択科目		学年	単位	
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	28	生活経済学(1)	1年	2	生活と法律(1)	1年	2					
			生活経営学	2年	2	消費者法	3年	2					
			家族関係学(1)	2年	2								
			消費者政策論	2年	2								
			生活設計論	2年	2								
			消費者教育論	3年	2								
			生活情報論	3年	2								
			家族福祉学	3年	2								
	衣生活概論		2年	2									
	被服製作実習		3年	2									
	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）				食物学(栄養学・食品学を含む)	3年	2						
					調理実習	3年	2						
住居学			住居学概論（製図を含む）	2年	2								
保育学（実習を含む。）			保育学（実習及び家庭看護を含む）	2年	2								
各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）			家庭科指導法A	2年	4								
			家庭科指導法B	3年	2								
			家庭科指導法C	3年	2								

備考：取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を履修方法に従い中一種においては8単位を履修しておくこと。後述の〔3〕を参照してください。

生活マネジメント学科

○高一種免「家庭」

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数						
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	必修科目		選択科目		学年	単位	
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	24	生活経済学(1)	1年	2	生活と法律(1)	1年	2	
			生活経営学	2年	2	消費者法	3年	2	
			家族関係学(1)	2年	2				
			消費者政策論	2年	2				
			生活設計論	2年	2				
			消費者教育論	3年	2				
			生活情報論	3年	2				
			家族福祉学	3年	2				
			衣生活概論	2年	2				
			被服製作実習	3年	2				
	被服学（被服製作実習を含む。）								
	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）				食物学（栄養学・食品学を含む）	3年	2		
	住居学（製図を含む。）				調理実習	3年	2		
	保育学（実習及び家庭看護を含む。）				住居学概論（製図を含む）	2年	2		
家庭電気・家庭機械・情報処理			保育学（実習及び家庭看護を含む）	2年	2				
各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）			家庭電気・機械	3年	2				
			情報処理演習(1)	1年	1				
			家庭科指導法A	2年	4	家庭科指導法B	3年	2	
						家庭科指導法C	3年	2	

備考：取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を履修方法に従い高一種においては4単位を履修しておくこと。
後述の〔3〕を参照してください。

生活マネジメント学科

○高一種免「情報」

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数					
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	必修科目		選択科目		学年	単位
教科に関する専門的事項	情報社会・情報倫理	24	現代社会と情報	3年	2	現代社会とA I	3年	2
			情報倫理論	3年	2			
	コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		情報処理論	2年	2	プログラミング基礎	1年	2
			情報処理演習(1)	1年	1	プログラミング応用	2年	2
	情報システム（実習を含む。）		情報処理演習(2)	2年	1			
			生活情報システム論	3年	2			
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）		データベース技術	3年	2			
			情報通信ネットワーク論	3年	2			
	マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		インターネットプログラミング	3年	2			
			マルチメディア表現技術	3年	2	*CG論	3年	2
情報と職業	モデル化とシミュレーション	3年	2					
各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）			情報職業論	2年	2	インターネットビジネス	2年	2
			情報科指導法	2年	4			

備考1：取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を履修方法に従い高一種においては4単位を履修しておくこと。
後述の〔3〕を参照してください。

備考2：*は国際情報学科 開設科目

環境デザイン学科 アパレル・ファッションコース

○中一種免「家庭」

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数								
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	必修科目		学年 単位		選択科目		学年	単位	
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	28	生活経営学（家庭経済学を含む）	3年	2						
	被服学（被服製作実習を含む。）		現代家族論（家族関係学を含む）	3年	2						
			アパレル構成学	1年	2	衣生活概論	1年	2			
			着心地の科学	2年	2	被服製作実習	3年	2			
			ファッション造形実習(1)	1年	2	アパレル生産システム	2年	2			
			テキスタイル材料学(1)	1年	2	テキスタイル材料学(2)	2年	2			
						市場調査法	3年	2			
	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		食物学（栄養学・食品学を含む）	3年	2						
			調理実習	3年	2						
	住居学		住居学概論（製図を含む）	2年	2	住居計画	1年	2			
				建築計画学	2年	2					
				居住福祉論	3年	2					
				インテリアデザイン論	2年	2					
				近代建築史	1年	2					
保育学（実習を含む。）	保育学（実習及び家庭看護を含む）	2年	2								
	空間デザイン基礎製図	1年	2								
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	家庭科指導法A	2年	4								
	家庭科指導法B	3年	2								
	家庭科指導法C	3年	2								

備考：取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を履修方法に従い中一種においては8単位を履修しておくこと。
後述の〔3〕を参照してください。

環境デザイン学科 アパレル・ファッションコース

○高一種免「家庭」

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数								
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	必修科目		学年 単位		選択科目		学年	単位	
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	24	生活経営学（家庭経済学を含む）	3年	2						
	被服学（被服製作実習を含む。）		現代家族論（家族関係学を含む）	3年	2						
			アパレル構成学	1年	2	衣生活概論	1年	2			
			着心地の科学	2年	2	被服製作実習	3年	2			
			ファッション造形実習(1)	1年	2	アパレル生産システム	2年	2			
			テキスタイル材料学(1)	1年	2	テキスタイル材料学(2)	2年	2			
						市場調査法	3年	2			
	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		食物学（栄養学・食品学を含む）	3年	2						
			調理実習	3年	2						
	住居学（製図を含む。）		住居学概論（製図を含む）	2年	2	住居計画	1年	2			
				建築計画学	2年	2					
				居住福祉論	3年	2					
				インテリアデザイン論	2年	2					
				近代建築史	1年	2					
保育学（実習及び家庭看護を含む。）	保育学（実習及び家庭看護を含む）	2年	2								
	空間デザイン基礎実習	1年	2								
家庭電気・家庭機械・情報処理	家庭電気・機械	3年	2	空間CAD実習（基礎）	2年	1					
	コンピュータテキスタイルデザイン	2年	1								
	バーチャルファッションコーディネート	3年	1								
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	家庭科指導法A	2年	4	家庭科指導法B	3年	2					
	家庭科指導法C	3年	2	家庭科指導法C	3年	2					

備考：取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を履修方法に従い高一種においては4単位を履修しておくこと。
後述の〔3〕を参照してください。

環境デザイン学科 空間デザインコース

○中一種免「家庭」

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数										
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	必修科目		学年		単位		選択科目		学年	単位	
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	28	生活経営学（家庭経済学を含む）	3年	2								
	被服学（被服製作実習を含む。）		現代家族論（家族関係学を含む）	3年	2								
			衣生活概論	1年	2	アパレル構成学	1年	2					
			被服製作実習	3年	2	着心地の科学	2年	2					
						アパレル生産システム	2年	2					
						テキスタイル材料学(1)	1年	2					
						テキスタイル材料学(2)	2年	2					
						市場調査法	3年	2					
						洗浄科学	2年	2					
					染色加工学	2年	2						
			ファッション造形実習(1)	1年	2								
食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	食物学（栄養学・食品学を含む）	3年	2										
	調理実習	3年	2										
住居学	住居計画	1年	2	住居学概論（製図を含む）	2年	2							
	インテリアデザイン論	2年	2	建築計画学	2年	2							
	空間デザイン基礎製図	1年	2	居住福祉論	3年	2							
				近代建築史	1年	2							
保育学（実習を含む。）	保育学（実習及び家庭看護を含む）	2年	2	空間デザイン基礎実習	1年	2							
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	家庭科指導法A	2年	4										
	家庭科指導法B	3年	2										
	家庭科指導法C	3年	2										

備考：取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を履修方法に従い中一種においては8単位を履修しておくこと。後述の〔3〕を参照してください。

環境デザイン学科 空間デザインコース

○高一種免「家庭」

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数										
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	必修科目		学年		単位		選択科目		学年	単位	
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	24	生活経営学（家庭経済学を含む）	3年	2								
	被服学（被服製作実習を含む。）		現代家族論（家族関係学を含む）	3年	2								
			衣生活概論	1年	2	アパレル構成学	1年	2					
			被服製作実習	3年	2	着心地の科学	2年	2					
						アパレル生産システム	2年	2					
						テキスタイル材料学(1)	1年	2					
						テキスタイル材料学(2)	2年	2					
						市場調査法	3年	2					
						洗浄科学	2年	2					
					染色加工学	2年	2						
			ファッション造形実習(1)	1年	2								
食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	食物学（栄養学・食品学を含む）	3年	2										
	調理実習	3年	2										
住居学（製図を含む。）	住居計画	1年	2	住居学概論（製図を含む）	2年	2							
	インテリアデザイン論	2年	2	建築計画学	2年	2							
	空間デザイン基礎製図	1年	2	居住福祉論	3年	2							
				近代建築史	1年	2							
保育学（実習及び家庭看護を含む。）	保育学（実習及び家庭看護を含む）	2年	2	空間デザイン基礎実習	1年	2							
家庭電気・家庭機械・情報処理	家庭電気・機械	3年	2	コンピュータテキスタイルデザイン	2年	1							
	空間CAD実習（基礎）	2年	1	バーチャルファッションコーディネート	3年	1							
	家庭科指導法A	2年	4	家庭科指導法B	3年	2							
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	家庭科指導法A	2年	4	家庭科指導法C	3年	2							

備考：取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を履修方法に従い高一種においては4単位を履修しておくこと。後述の〔3〕を参照してください。

食環境栄養学科

○中一種免「家庭」

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数							
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	必修科目		学年	単位	選択科目		学年	単位
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	28	生活経営学（家庭経済学を含む）	4年	2					
	被服学（被服製作実習を含む。）		現代家族論（家族関係学を含む）	2~4年	2					
			被服製作実習	3年	2					
	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		衣生活概論	2年	2					
			基礎栄養学	1年	2					
			応用栄養学総論	2年	2					
			食品学 ⁽¹⁾	1年	2					
			食品学 ⁽²⁾	1年	2					
			調理学	1年	2					
			調理学実習 ⁽¹⁾	1年	1					
	住居学		調理学実習 ⁽²⁾	1年	1					
			食環境論	1年	2					
保育学（実習を含む。）	食品衛生学	3年	2							
	住居学概論（製図を含む）	2年	2							
各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）	保育学（実習及び家庭看護を含む）	2・3年	2							
	家庭科指導法A	2年	4							
	家庭科指導法B	3年	2							
			家庭科指導法C	3年	2					

備考：取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を履修方法に従い中一種においては8単位を履修しておくこと。
後述の〔3〕を参照してください。

食環境栄養学科

○高一種免「家庭」

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数							
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	必修科目		学年	単位	選択科目		学年	単位
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	24	生活経営学（家庭経済学を含む）	4年	2					
	被服学（被服製作実習を含む。）		現代家族論（家族関係学を含む）	2~4年	2					
			被服製作実習	3年	2					
	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		衣生活概論	2年	2					
			基礎栄養学	1年	2					
			応用栄養学総論	2年	2					
			食品学 ⁽¹⁾	1年	2					
			食品学 ⁽²⁾	1年	2					
			調理学	1年	2					
			調理学実習 ⁽¹⁾	1年	1					
	住居学（製図を含む。）		調理学実習 ⁽²⁾	1年	1					
			食環境論	1年	2					
保育学（実習及び家庭看護を含む。）	食品衛生学	3年	2							
	住居学概論（製図を含む）	2年	2							
各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）	保育学（実習及び家庭看護を含む）	2・3年	2							
	家庭電気・機械	3年	2							
	情報処理	3年	1							
			家庭科指導法A	2年	4		家庭科指導法B	3年	2	
							家庭科指導法C	3年	2	

備考：取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を履修方法に従い高一種においては4単位を履修しておくこと。
後述の〔3〕を参照してください。

②教育の基礎的理解に関する科目等

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数		1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	学校と教育の歴史	2				必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2				必修
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育社会学		2			必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		発達と学習	2				必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の理論と方法		2			必修
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論			2		必修
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳教育の理論と方法			2		中免のみ必修。 高免においては選択。
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法		2			必修
	特別活動の指導法		特別活動の指導法			2		必修
	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育の方法及び情報通信技術の活用		2			必修
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法			2		必修
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談		2			必修
	教育実践に関する科目		教育実習	中5 高3	教育実習A			
教育実習B							3	
教職実践演習		2	教職実践演習(中高)				2	必修

備考1：教育実習以前に、「教育実践に関する科目」を除く「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目を履修しておくこと。

備考2：後述の〔3〕を参照してください。

③大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
科目区分	単位数		1年	2年	3年	4年	
大学が独自に設定する科目	中4 高12	道徳教育の理論と方法			2		備考2
		情報教育論		2			

備考1：教育職員免許法施行規則で定められた、免許状取得に必要な最低取得単位数を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」または「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として使用することができます。ただし、他の免許教科のために設けられている「教科及び教科の指導法に関する科目」または「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として使用することはできません。

備考2：「道徳教育の理論と方法」は、高一種においては選択。中一種においては、「大学が独自に設定する科目」の単位として使用することはできません。

④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

施行規則に定める科目区分等	単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
			1年	2年	3年	4年	
日本国憲法	2	日本国憲法	2				必修
体育	2	スポーツ・アンド・エクササイズ講義		1			必修 これら 7科目より 1科目 選択必修
		スポーツ・アンド・エクササイズA	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズB	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズC	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズD	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズE	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズF	1				
外国語 コミュニケーション	2	英語コミュニケーションA(1)	1				必修
		英語コミュニケーションA(2)	1				
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作	2	情報リテラシー	2				必修

〔3〕教育実習

教職に関する科目の一つである教育実習は、教育現場における体験を通じて、教育についての深い理解と強い熱意をつちかい、真によき教育者としての素地をつくることを目的として行われます。実習生は、実際に教壇に立つとともに、生徒へのさまざまな指導、学級の経営と管理、校務などの実習を行います。

教育実習に関しては、次の点に注意してください。

- (1) 中学校免許取得のためには、「教育実習A」5単位（実習は原則として3週間4単位と事前・事後指導1単位）、高等学校免許取得のためには、「教育実習B」3単位（実習2週間2単位と事前・事後指導1単位）または「教育実習A」5単位のいずれかの履修が必要です。
- (2) 教育実習は、原則として中学校または高等学校、あるいはその両方です。いずれの場合も中学校・高等学校のすべての免許取得のための教育実習として有効です。
- (3) 複数の教科の免許を取得しようとする場合にも、実習はいずれかの教科で1回行えば十分です。
- (4) 教育実習は、実習校の協力を得て行われるものです。実習生は、実習校に迷惑をかけることのないよう、しっかりした決意と十分な配慮をもって取り組まなくてはなりません。
- (5) 教育実習に先立って、教育実習申込みオリエンテーションを行います。このオリエンテーションで教育実習についての認識を深め、慎重に検討した上で教育実習を希望する者は、所定の期間内に必要な書類を添えて履修支援センターに申し込んでください。ただし、下記「3. 教職課程委員会が指定する課題に関する条件」の①を満たさない者は教育実習申込みを行うことはできません。
- (6) 教育実習期間の前後に数回の事前・事後指導を行います。また、教育実習後には、所定のレポートを提出しなければなりません。教育実習の履修には、事前指導・事後指導への出席とレポートの提出も含まれます。
- (7) 教育実習は教員を志す者にのみ認められます。教育実習を希望する者は、教員採用試験（愛知県・名古屋市など）を受験することを原則とします。実際に、中学校・高等学校が実施する事前指導で、教員採用試験を受けない学生は実習をとりやめるように言われたケースがあります。また、採用試験に欠席した学生が出た場合、教育委員会から、電話やFAXで欠席した理由の説明を求められることがありますので必ず受験してください。さらに、教育実習や教員採用試験の時期は企業などへの就職活動の時期と重なりますが、企業などへの就職活動についての配慮はいっさい認められません。実習先の先生や生徒に迷惑をかけることが無いよう、教育実習を最優先させてください。
- (8) 教育実習の際に必要な知識を習得しておくために、教育実習の履修以前に、「教育実践に関する科目」を除く「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目をすべて履修していなければなりません。また、取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を、中一種においては8単位、高一種においては4単位を履修していなければなりません。なお、教育実習への準備を十分に行うために高校の教員免許状取得では選択となっている「〇〇科指導法BまたはC」も全て履修することを強く推奨します。
- (9) 教育実習では実際の授業の場で生徒に指導するため、十分な力量を備えて実習に臨む必要があります。本学では、以下に示す1.「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」と「教育の基礎的理解に関する科目等」に関する条件、2.「教科に関する専門的事項」に関する条件、3. 教職課程委員会が指定する課題に関する条件のすべてを満たす場合に教育実習の履修を認めることにしています。

なお、オリエンテーション、事前指導、課題等への取り組みや履修カルテ等によって教育実習に向けた準備状況から、教育実習に向けた準備が不十分であると判断された学生には学科のアドバイザー教員や教職課程担当教員から、改善を促すことがあります。改善が見られない場合は履修を認めないこともあります。

1. 「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」と「教育の基礎的理解に関する科目等」に関する条件

次のいずれかを満たすこと。

- ① 原則として、教育実習履修前年度終了時まで、「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」と「教育実践に関する科目」を除く「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目をすべて履修し、かつ、18単位以上取得していること。ただし、「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」は、

教育実習で担当する科目に関するもののみをこの条件の対象科目とする。

- ② キャリアアップ講座が実施する教員採用試験模試の「教職科目」（教職教養等の名称）の試験の得点が50%以上の結果を、一度以上得ていること（ただし自宅受験した場合の成績は対象としない）。

* 留学等によって、①の条件を満たすことができない学生は次のように対応する。留学へ行く場合は、4年次（薬学部6年次）卒業までに、教員免許状取得に必要な単位をすべて取得できる見込みがある場合にのみ、4年次（薬学部6年次）における教育実習履修を認めることとする。その際、原則として教育実習履修前年度末までに、「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」と「教育実践に関する科目」を除く「教育の基礎的理解に関する科目等」を6科目以上履修し、12単位以上（〇〇科指導法Aまたは〇〇科指導法の単位を含む）を取得していることを条件とする。

2. 「教科に関する専門的事項」に関する条件

次のいずれかを満たすこと。

- ① 教育実習前年度終了時点における教育実習で担当する科目の「教科に関する専門的事項」のGPAが2.5以上であること。
- ② キャリアアップ講座が実施する教員採用試験模試の「専門科目」（教育実習で担当する科目）の得点率が50%以上の結果を一度以上、得ていること（ただし自宅受験した場合の成績は対象としない）。
- ③ 教科の専門的知識・技能があると認められる資格等を大学入学後に取得していること。
- 英語：英検2級以上、TOEIC 500点以上、TOEFL 470点（iBT 50点）以上、またはこれらと同等以上の資格のいずれか
- 家庭：消費者力検定「応用コース」3級以上
- 情報：ITパスポート試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、マルチメディア検定エキスパートのいずれかに合格していること
- 音楽：音楽芸術学科が主催する定期演奏会の出場経験、またはそれと同等以上と認められる演奏会への出場経験
- 理科：薬学共用試験に合格していること
- その他、各学科から提案のあった資格、入賞経験等を有し、教職課程委員会が認めた場合。

* 学内模試を受験できない等の事情がある編入生・科目等履修生は、課題に取り組みせた上で、学力確認試験等を実施して、教育実習履修の可否を判断するものとする。

* 科目等履修生は、「教科の専門的知識・技能があると求められる資格等」は科目等履修生を始める前に取得した資格等も対象とする。

* コミュニティ福祉学科の学生は、2年前期終了時のGPAが2.5以上あり、3年次に「ソーシャルワーク実習」ならびに「ソーシャルワーク実習指導(3)(4)」の単位を取得していることも条件とする。

3. 教職課程委員会が指定する課題に関する条件

- ① 教育実習の申込みは、申込み前年度の3月末までに当該学年の秋課題を提出していることを条件とする。
- ② 教育実習の履修は、前年度の1月第2火曜日（成人の日の翌日）までに当該学年の秋課題までの課題のすべてを提出していることを条件とする。

* 留学をする学生、編入生、科目等履修生の課題の内容や提出期限は、留学する時期や教育実習の履修予定年を考慮して担当教員から指示する。

〔4〕「介護等体験」について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」により、中学校教諭の免許状を取得しようとする場合に、特別支援学校および社会福祉施設等で7日間以上にわたる「介護等体験」を行うことが必要です。大学が斡旋する施設等に行って所定の活動を行う必要があります。大学による斡旋は、3年次に行く予定です。説明会等を2年次から行いますので注意してください。ただし、介護等に関する専門知識等を有する者や障害により介護等体験が困難な者は、免除される場合がありますので、履修支援センターで相談してください。

なお、3年次の夏休みを中心とした時期に介護等体験の予定が入りますが、原則として、正式な授業と認められるもの（例：集中講義、幼稚園教育実習、病院及び薬局実務実習など）及び、学科の専門領域と密接に関連があり、かつ、教育実習に向けた準備の上でも有益であると考えられる学科主催の公式行事である場合、また、履修要覧で定めている「欠席」とみなさない場合の条件、大学9頁〔5〕②eに該当する可能性があり、「配慮すべき日数」が数日に留まるもの場合には日程調整を行います。日程が明確となっている場合は、所定の期日までに申告してください。

なお、「配慮すべき日数」が数日に留まるものうち当該学科からの要請によって教職課程委員会が承認した場合は、決められた期日までに申し出たことにより日程調整を行うことがあります。学科の行事等が予定されている場合は自学科の教員と自学科担当の教職課程担当教員に相談してください。

ただし、施設や学校の受け入れ側の都合で、希望に添う日程に調整することは保証できませんので、ご承知ください。

〔5〕教職課程関係の連絡とスケジュール

教職課程の履修に関しては、教育実習、介護等体験、教員免許状の申請、各種オリエンテーションなど、さまざまな手続きが必要です。これらについての連絡はK-PORT(学生ポータルサイト)・manaba等によって行いますので、教職課程の履修を希望する者は常に注意してください。なお、教職課程に関する質問や相談は、履修支援センターで受け付けます。

教職課程に関して、4年間の主なスケジュールは次の通りです。

1年次	4月	教職課程ガイダンス（新入生オリエンテーション内）
2年次	7月	教職課程履修申込みオリエンテーション（履修希望者全員）
	7月～9月	介護等体験申込みオリエンテーション（中学校免許状取得希望者）
	11月	教員採用試験オリエンテーション
	12月	学内模試（各自申込） 教員採用試験対策講座
3年次	4月	教育実習履修（次年度）申込みオリエンテーション及び介護等体験日程調整
	4月・5月	学内模試（各自申込）
	5月～6月	教育実習希望校への内諾依頼
	7月～	介護等体験事前指導（全2回）
	8月～12月	介護等体験
	8月～9月	私学適性検査（各自申込）
	9月	第1回教育実習事前指導
	11月～12月	教員採用試験オリエンテーション
	12月	学内模試（各自申込） 教員採用試験対策講座

4年次	4月～5月	第2～7回教育実習事前指導
	4月・5月	学内模試（各自申込）
	5月中旬	愛知県・名古屋市・岐阜県・三重県教育委員会採用試験説明会
	5月～6月	教育実習A（原則として3週間）、教育実習B（2週間） *一部の学校では9月～10月になります
	7月上旬	教育実習事後指導
	7月中旬	教員採用試験・一次試験（愛知県・名古屋市 他全員受験）
	8月	教員採用試験・二次試験（愛知県・名古屋市 他）
	8月～9月	私学適性検査（各自申込）
	9月	教員免許状一括申請学内申込み
	11月	教員免許状申請書類記入
	3月（学位記授与式当日）	免許状交付

<教員採用試験模擬試験>

本学では、中高免教職課程において教育実習を行う者は、教員採用試験を受験することを原則とします。これは教育委員会から、教育実習の受け入れ条件として教員になる希望を持って、採用試験を受験することが条件として示されているためです。この条件は、教育現場において授業を担当する以上、しっかりとした専門的な知識技能と教職への希望を持って子どもへの指導にあたって欲しいという教育現場からの声を反映させたものであると本学では理解しています。そのため、2年次12月から4年次5月にかけて、キャリア・アップ講座に設けられている模擬試験（学内模試）を受験することを推奨しています。教員採用試験は、試験範囲が広く、長期的な展望を持って準備しないと、合格は容易ではありません。長期的な学習計画を立て、模擬試験をペースメーカーとして、教育実習と採用試験に備えてください。

注1）教員採用試験対策講座受講者は、専門科目の模擬試験を受験できます。詳しくはキャリア・アップ講座の窓口にお問い合わせください。

<教員採用試験>

公立中学校・高等学校の教員採用試験は、毎年夏に行われます。前述のように、本学では、教員採用試験の受験を教育実習を行うための条件にしています。また、多くの教育委員会で、教育実習の期間前や期間中に教員採用試験受験申し込み締め切りを設定しているため、教育実習前に教員採用試験の受験申し込みを済ませてください。なお、私学の教員採用については、応募や試験の形態が様々であるため、私学教員を志す場合は、各自で情報収集をするとともに、各学部・各学科担当の教職課程委員の教員に相談をしてください。

<教員免許状の申請>

教員免許状の申請は、大学が一括して愛知県教育委員会に対して行います。4年次の9月に申請手続きを履修支援センター窓口で行います。なお申請時に手数料が別途必要です。期限内に手続きをしない場合は、一括申請から除外されますので、行事予定やK-PORTを十分に注意し、指示に従ってください。

〔6〕課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、2,500円（3年次前期）、16,600円（4年次前期）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。

また、中学校教諭の免許状取得希望者は、介護等体験履修費として11,000円（3年次前期）、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。

納入方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

2 栄養教諭について

〔1〕 栄養教諭とは？

栄養教諭は、食のスペシャリストである管理栄養士・栄養士と、教育の専門家である教師の資質を合わせ持つ資格です。

栄養教諭の役割は、子どもたちが将来にわたって健康に生活できるように、学校給食を活用して栄養や食事に関して指導教育し、「食に関する望ましい習慣や自己管理能力」を身に付けさせるとともに、他の教科、家庭、地域とも連携して食に関する啓発を行うことです。そのため、栄養教諭を志す者は、管理栄養士としての専門性を確実に身につけたうえで、栄養の専門性と教員としての学識を練磨し人間性の育成を心がける必要があります。そして、児童・生徒の前に立って、自信を持って教えられるように教科と教職の専門性を伸ばす努力・自身の人格を陶冶する努力をしてください。

栄養教諭は、学校給食の管理と食に関する指導を職務とします。栄養教諭の配置については、①学校給食の実施が義務とはされていないこと、②現在の学校栄養職員も学校給食実施校のすべてに配置されていないこと、③地方の自主性を尊重するという地方分権の趣旨により、地方公共団体が地域の事情等に応じて配置しています。

栄養教諭の配置は義務的なものではありませんが、「食育基本法」の制定（平成17年）や、学校での「食育」の必要性が認知されたことにより、多くの地方公共団体で栄養教諭の採用試験が毎年実施されています。

免許法施行規則に定める科目区分等	最低修得単位数
①栄養に係る教育に関する科目	4
②教育の基礎的理解に関する科目等	18
③教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8
合 計	30

〔2〕 栄養教諭の履修に必要な単位

栄養教諭の免許状を取得するためには、学士の学位（食環境栄養学科を卒業したものに授与される学位）と管理栄養士養成課程修了（+栄養士免許）を基礎資格として必要とします。つまり、所定の単位を修得して本学を卒業することが前提となります。その上で、「栄養に係る教育に関する科目」4単位、「教育の基礎的理解に関する科目等」28単位、「教育免許法施行規則第66条に定める科目」8単位を修得することが必要です。

① 栄養に係る教育に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
各科目に含めることが必要な事項	単位数		1年	2年	3年	4年	
栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	4	食教育指導法			2		必修
幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項							
食生活に関する歴史的及び文化的事項		学校の食指導法			2		必修
食に関する指導の方法に関する事項							

②教育の基礎的理解に関する科目等

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数		1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	学校と教育の歴史	2				必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2				必修
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育社会学		2			必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		発達と学習	2				必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の理論と方法			2		必修
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論				2	必修
生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育の理論と方法			2		必修
	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		総合的な学習の時間の指導法		2			必修
	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		特別活動の指導法			2		必修
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法及び情報通信技術の活用		2			必修
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法				2	必修
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談		2			必修
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	栄養教育実習(事前事後指導を含む)				2	必修
	教職実践演習	2	教職実践演習(栄養教諭)				2	必修

③教育免許法施行規則第66条の6に定める科目

施行規則に定める科目区分等	単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
			1年	2年	3年	4年	
日本国憲法	2	日本国憲法	2				必修
体育	2	スポーツ・アンド・エクササイズ講義		1			これら7科目より1科目選択必修
		スポーツ・アンド・エクササイズA		1			
		スポーツ・アンド・エクササイズB		1			
		スポーツ・アンド・エクササイズC		1			
		スポーツ・アンド・エクササイズD		1			
		スポーツ・アンド・エクササイズE		1			
		スポーツ・アンド・エクササイズF		1			
		スポーツ・アンド・エクササイズG		1			
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションA(1)	1				必修
		英語コミュニケーションA(2)	1				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー	2				必修

〔3〕栄養教育実習

栄養教育実習に関しては、次の点に注意してください。

- (1) 栄養教諭免許取得のためには、栄養教育実習2単位（実習1週間と事前・事後指導1単位）を履修する必要があります。
- (2) 栄養教育実習先は、原則として小学校または中学校です。いずれの場合も指導者には栄養教諭が当たるため、栄養教諭配置がされていないところでは栄養教育実習はできません。
- (3) 栄養教育実習は、実習校の協力を得て行われるものです。実習生は実習校に迷惑をかけることのないよう、しっかりした決意と十分な配慮をもって取り組まなくてはなりません。
- (4) 栄養教育実習に先立って、栄養教育実習申し込みオリエンテーションを行います。このオリエンテーションで栄養教育実習についての認識を深め、慎重に検討した上で、栄養教育実習を希望する者は、所定の期間内に必要な書類を添えて履修支援センターに申し込んでください（栄養教育実習等の費用については、後日学納金の口座から引落としとなります）。ただし、下記「3. 教職課程委員会が指定する課題に関する条件」の①を満たさない者は栄養教育実習申込みを行うことはできません。
- (5) 栄養教育実習期間の前後に数回の事前指導・事後指導をおこないます。また、栄養教育実習後には所定のレポートを提出しなければなりません。栄養教育実習の履修には、事前指導・事後指導への出席とレポートの提出も含まれます。
- (6) 栄養教育実習は栄養教諭を志す者のみに認められます。栄養教育実習を希望する者は、教員（栄養教諭）採用試験（愛知県・名古屋市等）を受験することを原則とします。実際に、実習校が実施する事前指導で、教員採用試験を受けない学生は実習をとりやめるように言われたケースがあります。また、採用試験に欠席した学生が出た場合、教育委員会から、電話やFAXで欠席した理由の説明を求められることがありますので必ず受験してください。さらに、栄養教育実習や教員採用試験の時期は企業などへの就職活動の時期と重なりますが、企業などへの就職活動についての配慮は一切認められませんので注意してください。実習先の先生や生徒に迷惑をかけることが無いよう、教育実習を最優先させてください。
- (7) 栄養教育実習の際に必要な知識を習得しておくために、栄養教育実習履修以前に「1. 栄養に係る教育に関する科目」および「教育実践に関する科目」を除く「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目をすべて履修していなければなりません。
- (8) 栄養教育実習では実際の授業の場で児童・生徒を指導するため、十分な力量を備えて実習に臨む必要があります。本学では、以下に示す1. 「栄養に係る教育に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目等」に関する条件、2. 食環境栄養学科の学科基礎科目および展開科目の必修科目に関する条件、3. 教職課程委員会が指定する課題に関する条件のすべてを満たす場合に、栄養教育実習の履修を認めることとしています。

なお、履修カルテ等によって栄養教育実習に向けた準備等が不十分であると判断された場合には、学科のアドバイザー教員や教職課程担当教員から、改善を促すことがあります。改善が見られない場合には履修を認めないことがあります。

1. 「栄養に係る教育に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目等」に関する条件

次のいずれかを満たしていること。

- ① 原則として、教育実習履修前年度終了時まで「栄養に係る教育に関する科目」と「教育実践に関する科目」を除く「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目すべてを履修しており、GPAが2.5以上である。
- ② キャリアアップ講座が実施する教員採用試験模試の「教職科目」（教職教養等の名称）の試験の得点が50%以上の結果を、一度以上得ている（ただし自宅受験した場合の成績は対象としない）。

2. 「学科基礎科目」および「展開科目」の必修科目に関する条件

原則として学科基礎科目および展開科目の必修科目を開講基準年次で単位修得できている。

* 学内模試を受験できない等の事情がある科目等履修生は課題に取り組みせた上で、学力試験等を実施

<教員採用試験>

公立小・中学校の教員採用試験は、毎年夏に実施されています。栄養教育実習を行う者は、採用試験を受験することを原則とします。栄養教諭の採用試験は、自治体によっては、現在の学校栄養職員の採用を優先していることがあります。その場合は実施されている「学校栄養職員」採用試験を受けてください。

<教員免許状の申請>

教員免許状の申請は、大学が一括して愛知県教育委員会に対して行います。4年次の9月に申請手続きを履修支援センター窓口で行います。なお申請時に手数料が別途必要です。期限内に手続きをしない場合は、一括申請から除外されますので、行事予定やK-PORTを十分に注意し、指示に従ってください。

〔5〕 課程履修費等について

栄養教諭教職課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、19,100円（4年次前期）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。

納入方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

1 ファイナンシャル・プランナーについて

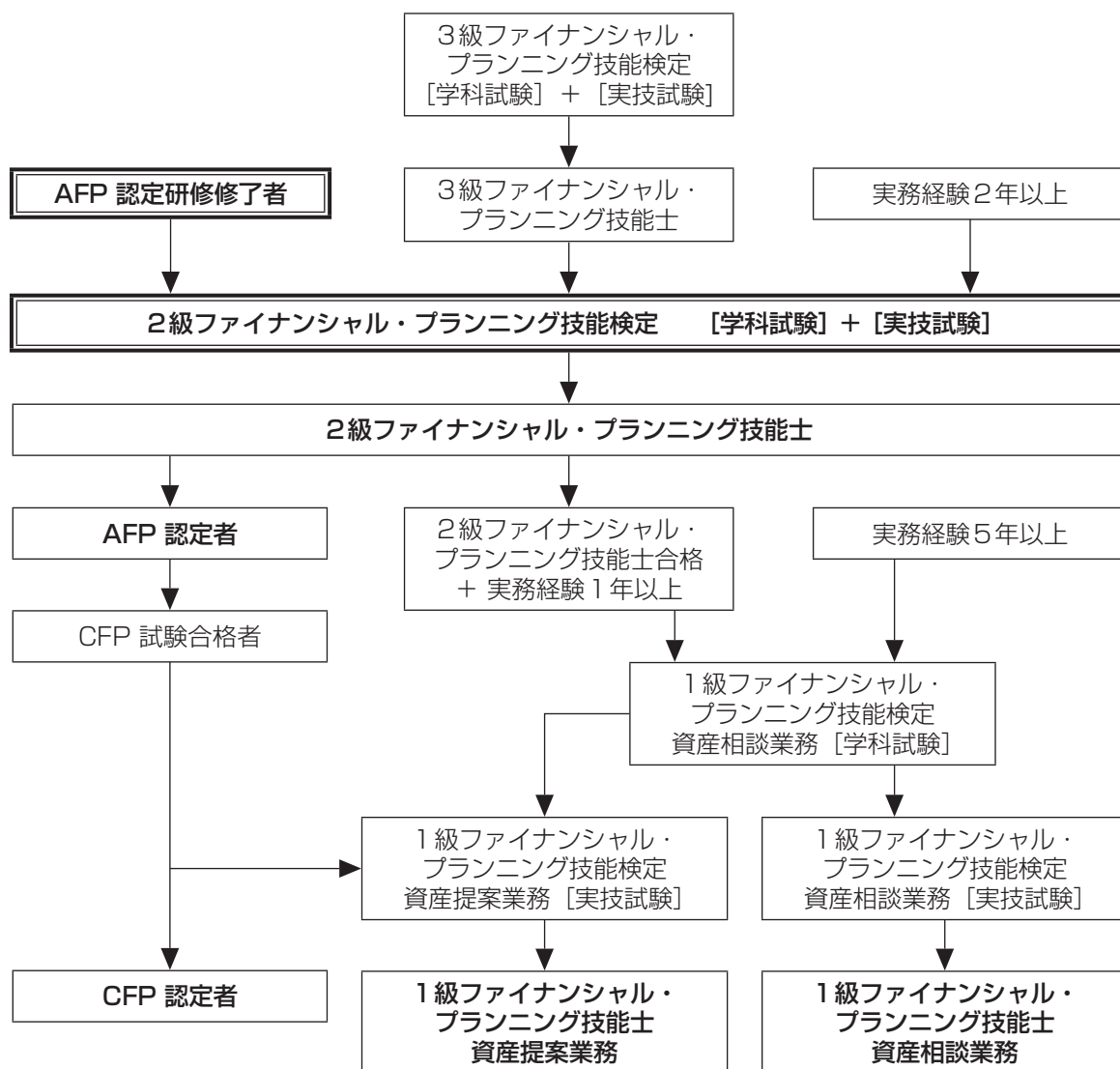
〔1〕ファイナンシャル・プランナー資格とは？

日本版金融ビッグバンに伴う金融商品や資産運用方法の多様化、終身雇用制度の崩壊、退職金や年金への不安といった諸課題を抱える今日、生活者が自己責任のもとに生涯にわたって自らのライフスタイルを実現していく上で、パーソナル・ファイナンシャル・プランニングの重要性はますます高まっています。しかし、生活者自身がパーソナル・ファイナンシャル・プランニングに必要な経済・金融・保険・不動産・税金・社会保険制度などについての知識や技術をすべてにわたって身につけることは困難です。ファイナンシャル・プランナーは、こうしたパーソナル・ファイナンシャル・プランニングに必要な包括的かつ専門的な知識・技術を身につけ、生活者の生涯にわたる夢の実現をサポートする「生活設計のアドバイザー」です。近年、銀行・証券・保険などの金融業界における必須資格となってきています。

〔2〕ファイナンシャル・プランナー資格試験の概要

ファイナンシャル・プランニングに関わる技能検定の体系は下の図に示すとおりで、NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会（AFP・CFP）および、社団法人金融財政事情研究会（3級・2級・1級FP技能士）の両機関によって運営、実施されています。

生活マネジメント学科のカリキュラムは、NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会による認証を受けているため、指定科目の履修、修了により、AFP認定研修修了者として、実務経験などの条件無しにAFP（2級FP技能検定）受験資格を取得することができます。



〔3〕AFP認定研修課程

(1) AFP認定研修課程の科目構成

AFP認定研修の修了には、指定科目の履修とともに、模擬的にライフプランを作成する「提案書」の作成と合格（60点／100点以上）を必要とします。特別認定教育機関として、生活マネジメント学科が提供する指定科目とその具体的学習内容は以下の表のとおりです。

生活マネジメント学科開講科目名称	具体的学習内容	開講学年 学期	単位数
ファイナンシャルプランニングA	ファイナンシャルプランニング基礎 ライフプランニングとリタイアメントプランニング タックスプランニング	2年 前期	2
ファイナンシャルプランニングB	金融資産運用設計 リスクと保険	2年 前期	2
ファイナンシャルプランニングC	不動産運用設計 相続・事業承継設計	2年 後期	2
ファイナンシャルプランニングD	提案書の作成 AFP資格試験過去問題の研究 AFP資格試験受験オリエンテーション	2年 後期	2

(2) AFP認定研修課程履修上の注意

AFP認定研修課程は、2年次前期から2年次後期を通した1年間の資格課程です。指定4科目の履修においては、必ず2年次前期に「ファイナンシャルプランニングA」「ファイナンシャルプランニングB」の2科目を履修し、それに続けて2年次後期に「ファイナンシャルプランニングC」「ファイナンシャルプランニングD」を履修しなければ、AFP認定研修の修了要件を満たすことができません（3年次前期から3年次後期にかけて同様に履修しても可）。

AFP認定研修課程受講に際しては、事前にNPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会への受講者登録を必要とします。学科が事前に開催するAFP認定研修課程受講説明会に参加し、必ず協会への受講者登録をしてください。なお、学習効果の観点から、協会よりこの認定研修課程の受講者数が、上限60名と定められているため、AFP認定研修課程受講説明会において上限を超える受講希望者があった場合には、選考を行う場合がありますので注意してください。

〔4〕資格取得までのスケジュール

前年度1月～春休中 AFP認定研修受講説明会、受講者登録

当年度前期 AFP認定研修カリキュラム受講（2科目）

当年度後期 AFP認定研修カリキュラム受講（2科目）、提案書の作成



AFP認定研修修了証発行

2級ファイナンシャル・プランニング技能検定試験受験申請

2級ファイナンシャル・プランニング技能検定試験受験（1月予定）

〔5〕課程履修費について

AFP認定研修課程を履修するには学納金とは別に課程履修費が必要です。課程履修費は、7,000円（2年次）です。

納入方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

2 衣料管理士（テキスタイルアドバイザー：TA）2級について

現代のアパレル製品は、消費者ニーズの高度化、個性化にともない、多様化、複雑化が進んでいます。新しい加工技術や素材の開発は、私たちの生活を潤いある豊かなものへと導いてくれますが、一方で、品質情報の提供不足などが消費者苦情を生み出す誘因となり、経済産業省に寄せられる苦情のうち繊維製品に関するものが実に1/4以上を占めていると言われています。消費者の信頼を得ながら企業が快適で品質の高い製品を開発し、需要や販路を拡大していくためには、消費者の実態とニーズを正しくとらえ、マーケットに即した対応が必要です。こうした要求に応えるためには、アパレルの生産・流通・消費の各段階において、専門知識や技術を身につけ消費者と企業とを結ぶパイプ役を果たすことのできる人材が必要となります。

衣料管理士は、消費者と企業との関係を円滑にする役割を担うために必要な専門知識を有する人に与えられる資格です。この資格を取得することで、テキスタイルおよびアパレル製品を扱う企業や機関において、品質管理、企画、生産、販売、仕入れ、コンサルタント、苦情処理などの分野に活躍の場があり、消費生活の向上と企業の発展に貢献することができます。

環境デザイン学科アパレル・ファッションコース所定の本資格に関する科目（2. 参照）の単位を修得後、最終試験に合格し、課程費および衣料管理士認定証交付料を納入することにより、衣料管理士（2級）の資格を卒業時に取得することができます。資格取得を希望する人は、積極的に専門知識の修得に励んでください。

1 資格認定機関

一般社団法人 日本衣料管理協会

（一社）日本衣料管理協会は、経済産業省製造産業局の所管、監督のもとに、衣料管理士養成大学、主要業界団体（テキスタイルメーカー、染色整理業、アパレルメーカー、百貨店、量販店、クリーニング業、行政、検査機関など）、学識経験者、および衣料管理士（TA）会員、繊維製品品質管理士（TES）会員によって構成されています。

2 資格要件カリキュラム

衣料管理士の資格要件のカリキュラムは、生産、流通、消費にわたる幅広いもので、アパレル製品に関して「材料」「加工・整理」「企画・設計・生産」「流通・消費」の4つの側面から学びます。

以下の表の環境デザイン学科アパレル・ファッションコース所定の開講科目は、すべて衣料管理士2級の資格を取得するための必修科目です。

グループ	環境デザイン学科 アパレル・ファッションコースの開講科目	単位数
材料	テキスタイル材料学(1)	2
	テキスタイル材料学(2)	2
	テキスタイル材料学実験	2
加工・整理	染色加工学	2
	洗浄・染色加工実験	2
	洗浄科学	2
企画・設計・生産	アパレル企画実習	2
	ファッションデザイン論	2
	アパレル構成学	2
	人体とパターンメイキング	2
	ドレーピングの基礎	1
	アパレル生産システム実習	2
	コンピュータパターンメイキング	1
	バーチャルファッションコーディネート	1
着心地の科学	2	
流通・消費	消費科学	2
	ファッションビジネス	2
	市場調査法	2
	コンピュータテキスタイルデザイン	1
単 位 合 計		34

※太字はアパレル・ファッションコースの必修科目です。

3 資格の認定について

上記の所定カリキュラムの単位修得後、4年後期（12月）に行われる最終試験に合格すると、卒業時に認定証が交付されます。

衣料管理士（2級）を取得すると、繊維製品品質管理士（TES）の5つの受験科目のうち「繊維に関する一般知識」科目の免除を申請できます。

4 課程履修費について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費が必要です。課程履修費は、9,700円（2年次前期）です。徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

5 衣料管理士認定証交布料等について

衣料管理士の資格認定時（卒業時）に認定証交付料、日本衣料管理協会入会費等として15,300円（認定証交付料（税込）7,700円・協会入会金2,000円・年度会費3,000円・ミニ情報購読料2,600円）の納入が必要です。

3 インテリアプランナーについて

インテリアプランナーは、インテリアプランニングにおいて企画、設計、工事監理を行うインテリアに関する知識と技術に習熟した専門家のことであり、(公財)建築技術教育普及センター (<http://www.jaeic.or.jp>) が行う試験に合格し、登録した資格者のことです。建築界でもインテリア設計の重要性が認められるようになり、建築計画の初期段階からインテリアプランナーが参加してプロジェクトを進める必要性が高まってきています。

インテリアプランナーの資格を得るためには、6月に実施される「学科試験」(年齢・学歴制限なし)に合格し、さらに11月に実施される「設計製図試験」に合格する必要があります。そして、下表に定める科目について合計36単位以上履修した者は、実務経験なしでインテリアプランナーとして登録することができます。建築士を取得している場合は「学科試験」が免除されます。また、「学科試験」に合格した段階で、アソシエイト・インテリアプランナーとして登録することができます。

科目名称	開講年次	選択・必修の別	単位数
色彩学	1	必修	2
インクルーシブデザイン論	1	選択	2
近代建築史	1	必修	2
インテリアデザイン史 *	1	選択	2
住生活論	3	選択	2
空間デザイン概論	1	必修	2
インテリアデザイン論 *	2	選択	2
人間工学	3	必修	2
室内環境学(1)	2	必修	2
室内環境学(2)	3	選択	2
建築設備	3	必修	2
建築材料学	3	必修	2
インテリア材料学 *	3	選択	2
建築一般構造	1	必修	2
建築構造力学(1)	2	必修	2
建築構造力学(2)	2	選択	2
建築構造設計演習	3	選択	1
建築施工	4	必修	2
建築法規	3	必修	2
住居計画	1	必修	2
建築計画学	2	必修	2
空間デザイン基礎製図	1	必修	2
空間デザイン基礎実習	1	必修	2
空間デザイン実習(1)	2	必修	2
空間デザイン実習(2)	2	必修	2
インテリア空間デザイン実習A *	3	選択	2
インテリア空間デザイン実習B *	3	選択	2
合計36単位以上 (必修科目34単位、選択科目2単位以上)			

- ※1 上記インテリアプランナー登録資格課程の必修科目は、空間デザインコースの必修科目と同じである。
 ※2 空間デザインコースの学生は、コース必修科目の他、表中の選択科目を2単位以上履修すること。
 ※3 履修単位数にかかわらず、*印の科目はインテリアプランナー受験のための推奨科目なので、ぜひ履修すること。
 ※4 インテリアプランナーに登録する際には、「インテリアプランナー登録資格に係る単位取得証明書」を大学(学生生活支援センター)で申し込むこと(一般の卒業証明書だけでは登録手続きはできません)。

4 一級建築士、二級建築士、木造建築士について

〔1〕 建築士資格について

建築士の資格は、建築士法に定められた国家資格です。一定の規模・構造・機能の建物になると、有資格者でなければ設計や工事監理を行うことができません。従って、住宅・建築関連の業界で活躍するためには必須の資格となります。建築士には、一級建築士、二級建築士、木造建築士、構造設計一級建築士、設備設計一級建築士の5種類があり、それぞれ業務の範囲が定められています（建築士法第三条、第二十条の二および第二十条の三）。詳しくは（公財）建築技術教育普及センターのホームページを参照してください（<http://www.jaeic.or.jp>）。

〔2〕 受験資格について

環境デザイン学科で空間デザインコースを履修し卒業すると、以下の表に定める二級建築士および木造建築士試験の単位修得要件をみることができます。卒業後、二級建築士または木造建築士試験を受験し合格すると、二級建築士または木造建築士として登録することができます。

また、環境デザイン学科で空間デザインコースを履修し、かつ以下の表に定める一級建築士試験の単位修得要件をみたと、卒業後、一級建築士試験を受験することができます。試験に合格したのち、修得単位の総計（60単位以上、50単位以上、40単位以上）に応じて定められた実務経験年数（2年以上、3年以上、4年以上）を経ると、一級建築士として登録することができます。なお、実務経験は、卒業後であれば、一級建築士試験受験の前でも、後でも、また前と後に分割して積むこともできます。

指定科目の分類	指 定 科 目	単位数	単位修得要件	
			一級建築士	二級・木造
①建築設計製図	空間デザイン基礎製図	2	7単位以上	5単位以上
	空間デザイン基礎実習	2		
	空間デザイン実習(1)	2		
	空間デザイン実習(2)	2		
	空間デザイン実習A	2		
	空間デザイン実習B	2		
	空間デザイン実習C	2		
	インテリア空間デザイン実習A	2		
②建築計画	住居計画	2	7単位以上	7単位以上
	住生活論	2		
	建築計画学	2		
	居住福祉論	2		
	近代建築史	2		
	日本建築史	2		
	西洋建築史	2		
③建築環境工学	室内環境学(1)	2	2単位以上	
	室内環境学(2)	2		
④建築設備	建築設備	2	2単位以上	
⑤構造力学	建築構造力学(1)	2	4単位以上	6単位以上
	建築構造力学(2)	2		
	建築構造力学演習	1		
⑥建築一般構造	建築一般構造	2	3単位以上	
	建築構造設計演習	1		
⑦建築材料	建築材料学	2	2単位以上	
	建築材料学実験	2		

指定科目の分類	指 定 科 目	単位数	単位修得要件	
			一級建築士	二級・木造
⑧建築生産	建築施工	2	2単位以上	1単位以上
⑨建築法規	建築法規	2	1単位以上	1単位以上
⑩その他	空間デザイン概論	2		
	空間デザイン特論A	2		
	空間デザイン特論B	2		
	都市計画学	2		
	都市設計論	2		
	インクルーシブデザイン論	2		
	建築測量	1		
	空間CAD実習(基礎)	1		
	空間CAD実習(3D)	2		
	インテリアデザイン論	2		
	インテリア材料学	2		
造園学	2			
総計 (一級建築士は修得単位の総計に応じて必要な実務経験年数が異なる)			60単位以上 =実務経験2年 50単位以上 =実務経験3年 40単位以上 =実務経験4年	40単位以上

※1 太字の科目は空間デザインコースの必修科目です。

※2 一級建築士の受験資格を得るためには、「②建築計画」の中からさらに1科目、「⑤構造力学」の中の「建築構造力学(2)」、「⑥建築一般構造」の中の「建築構造設計演習」を必ず履修しなくてはならない。

〔3〕受験資格について

受験資格を得ると、国土交通大臣が行う一級建築士試験、都道府県知事が行う二級建築士試験または木造建築士試験を受験することができます。受験の際には「一級建築士試験指定科目修得単位証明書・卒業証明書」または、「二級建築士試験指定科目修得単位証明書・卒業証明書」を大学(学生生活支援センター)でお申込みください。(一般の卒業証明書での受験手続きはできません)

5 商業施設士について

商業施設士の資格は（公社）商業施設技術団体連合会が認定する民間資格で、商業施設の運営管理システムや店舗の構成・デザインなどを総合的に計画し、監理まで行うことのできる技能を保証するものです。

環境デザイン学科に在籍し、単位修得要件をみたした者は、その年度の10月もしくは2月に実施される講習会を受けると商業施設士補となることができます。さらに商業施設士補となった者は、1月か6月に実施される試験に合格すれば、商業施設士になることができます。その際、「学科試験」は免除され、「構想表現（実技）試験」のみの受験となります。

修得しなくてはならない科目は以下の表のとおりです。

区 分	指 定 科 目 名	単位数	単位修得要件
商業一般	ファッションビジネス	2	4単位以上
	消費科学	2	
	住生活論	2	
	空間デザイン概論	2	
	インテリアデザイン論 *	2	
商業施設 構成計画	色彩学	2	10単位以上
	色彩学演習	1	
	人間工学	2	
	インクルーシブデザイン論	2	
	インクルーシブデザイン特論	2	
	住居計画	2	
	建築計画学	2	
	居住福祉論	2	
	空間デザイン特論A	2	
	空間デザイン特論B	2	
	インテリアデザイン史	2	
	室内環境学(1)	2	
	室内環境学(2)	2	
	都市計画学	2	
都市設計論	2		
造園学	2		
建築一般及び 工事監理・施工	日本建築史	2	4単位以上
	西洋建築史	2	
	近代建築史	2	
	建築設備	2	
	建築一般構造	2	
	建築構造力学(1)	2	
	建築構造力学(2)	2	
	建築構造設計演習	1	
	建築材料学	2	
	建築法規	2	
	建築施工	2	
	建築材料学実験	2	
	設計製図	建築測量	
空間デザイン基礎製図		2	
空間デザイン基礎実習		2	
空間デザイン実習(1)		2	
空間デザイン実習(2)		2	
空間デザイン実習A		2	
空間デザイン実習B		2	
インテリア空間デザイン実習A *		2	
インテリア空間デザイン実習B *		2	
空間CAD実習（基礎）		1	
空間CAD実習（3D）	2		

※1 太字は空間デザインコース必修科目です。

※2 履修上の注意

①空間デザインコースの学生は、コース必修科目と「インテリアデザイン論」を履修し、3年前期に「設計製図」の中の「建築測量」「空間デザイン実習A」「インテリア空間デザイン実習A」のいずれかを履修すれば、3年次の10月に商業施設士補になるための講習会を受講することができます。

②*印の科目は商業施設士を受験するための推奨科目です。

6 管理栄養士について

管理栄養士は、厚生労働大臣の許可を受けて1) 傷病者に対して療養のために必要な栄養の指導(臨床栄養領域)、2) 個人の身体の状況、栄養状態などに応じた高度の専門的知識及び技能を要する健康の保持・増進のための栄養の指導(公衆栄養領域)、3) 特定多数の人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体状況、栄養状態、利用の状況などに応じた給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導など(給食経営管理領域)を行う職業です。管理栄養士国家試験に合格する必要があります。

卒業までに修得しなくてはならない科目は、次の表のとおりです。

指定教育内容	単位数		本学開講科目	科目形態と単位数の必修・選択の別			開講基準年次及び単位数						
	講義又は演習	実験又は実習		形態	必修	選択	1年	2年	3年	4年			
社会・環境と健康	6		社会保健学	講義	2				2				
			公衆衛生学(1)	講義	2				2				
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14	10	公衆衛生学(2)	講義	2				2				
			病原微生物学	講義	2				2				
			解剖生理学(1)	講義	2			2					
			解剖生理学(2)	講義	2						2		
			解剖生理学実験(1)	実験	1				1				
			解剖生理学実験(2)	実験	1						1		
			病理学総論	講義	2					2			
			病理学各論	講義	2						2		
			生化学(1)	講義	2				2				
			生化学(2)	講義	2					2			
			生化学実験(1)	実験	1					1			
			生化学実験(2)	実験	1						1		
			食べ物と健康	8		食品学(1)	講義	2			2		
						食品学(2)	講義	2			2		
食品学実験(1)	実験	1						1					
食品学実験(2)	実験	1							1				
食品衛生学	講義	2								2			
食品衛生学実験	実験	1								1			
調理学	講義	2							2				
調理学実習(1)	実習	1							1				
調理学実習(2)	実習	1							1				
調理学実習(3)	実習	1								1			
小計	28	10	小計		38								
基礎栄養学	2	8	基礎栄養学	講義	2			2					
			栄養学実習	実習	1			1					
			応用栄養学総論	講義	2				2				
			母子栄養学	講義	2				2				
			加齢栄養学	講義	2				2				
			応用栄養学実習	実習	1					1			
			栄養教育原論	講義	2				2				
			栄養教育各論	講義	2					2			
			栄養教育論実習	実習	1					1			
			栄養カウンセリング論	講義	2					2			
			栄養カウンセリング実習	実習	1					1			
			疾病別栄養管理論	講義	2				2				
			臨床栄養学	講義	2					2			
			栄養アセスメント論	講義	2				2				
			臨床栄養管理論	講義	2				2				
			疾病別栄養管理実習	実習	1				1				
			臨床栄養学実習	実習	1					1			
公衆栄養学	4		公衆栄養学(1)	講義	2			2					
			公衆栄養学(2)	講義	2				2				
			公衆栄養学実習	実習	1					1			
給食経営管理論	4		給食経営管理論	講義	2			2					
			フードマネージメント論	講義	2				2				
総合演習	2	4	給食経営管理実習	実習	1				1				
			栄養総合演習	講義	2				2				
臨地実習			臨地実習	実習	4				4				
小計	32	12	小計		44								
合計	60	22	合計		82								

※課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、35,000円（1年次前期）、50,000円（2年次前期）、79,600円（3年次前期）、74,600円（4年次前期）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料340円が必要です。

納入方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

7 食品衛生監視員及び食品衛生管理者について

食品衛生監視員について

食品衛生法に規定された職務及び食品衛生に関する指導を行う技術系公務員で、主に国の検疫所と地方自治体の保健所に所属し、食品の検査や食中毒の調査、食品製造業や飲食店の衛生監視、指導及び教育を行います。本学では食品衛生監視員任用資格を取得できます。

食品衛生管理者について

食品衛生法により食品衛生法施行令に指定のある食肉製品製造業など衛生上の考慮を必要とする一定の食品又は食品添加物の製造又は加工を行う営業所で、食品衛生法第48条の規定により、施設における製造もしくは加工の段階で衛生上の考慮を必要とする食品や添加物などにおいて衛生管理を行います。

* 食品衛生監視員任用資格ならびに食品衛生管理者資格は、学科必修科目に加えて指定された化学関連の1科目を履修することが取得要件です。

区分	単位修得要件	授業科目	形態	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
A群：化学関係	A群からD群までそれぞれ1科目以上 合計22単位以上 A群からE群までの総単位数 合計40単位以上	★ 基礎化学	講義	2			
		○ 基礎有機化学	講義	2			
		○ 分析化学 *	講義		2		
B群：生物化学関係		★ 生化学(1)	講義	2			
		★ 生化学(2)	講義		2		
		★ 生化学実験(1)	実験		1		
		★ 生化学実験(2)	実験			1	
		★ 解剖生理学(1)	講義	2			
		★ 解剖生理学(2)	講義			2	
		★ 解剖生理学実験(1)	実験		1		
		★ 解剖生理学実験(2)	実験			1	
		★ 食品学(1)	講義	2			
		★ 食品学(2)	講義	2			
		★ 食品学実験(1)	実験	1			
		★ 食品学実験(2)	実験		1		
C群：微生物学関係	★ 病原微生物学	講義		2			
D群：公衆衛生学関係	★ 食品衛生学	講義			2		
	★ 食品衛生学実験	実験			1		
	★ 公衆衛生学(1)	講義		2			
	★ 社会保健学	講義			2		
	★ 公衆衛生学(2)	講義		2			
	★ 公衆栄養学(1)	講義		2			
	★ 給食経営管理論	講義		2			
	E群：その他関連科目	★ 病理学総論	講義		2		
		★ 病理学各論	講義			2	
		★ 基礎栄養学	講義	2			
★ 応用栄養学総論		講義		2			
★ 母子栄養学		講義		2			
★ 加齢栄養学		講義		2			
★ 疾病別栄養管理論		講義		2			
★ 臨床栄養学		講義			2		
★ 臨床栄養管理論		講義		2			
★ 栄養学実習		実習	1				
★ 応用栄養学実習	実習				1		

備考：★印は、必修科目 ○印の内1科目を履修
* 履修するのが望ましい。

履 修 要 覧

2022年度

2022年4月 発行

編集／発行 金城学院大学履修支援センター
〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目1723番地
TEL (052) 798-0180
URL <http://www.kinjo-u.ac.jp>